

令和 4 年度

事 業 報 告

社会福祉法人 品川総合福祉センター

目 次

法人事業報告	1
法人研修事業報告	5
地域福祉課事業報告	7

高齢者群

1. 特別養護老人ホーム かえで荘事業報告	11
2. 特別養護老人ホーム 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告	15
3. 特別養護老人ホーム 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告	19
4. グループホーム八潮南事業報告	24
5. 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告	27
6. 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告	29
7. 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告	31
8. 品川区八潮、中延、大井、大井第二在宅介護支援センター事業報告	33



障害者群

1. 障害者支援施設 かもめ園（知的障害部門）事業報告	35
2. 障害者支援施設 かもめ園（身体障害部門）事業報告	39
3. 障害福祉サービス事業 サンかもめ事業報告	43
4. 品川区立心身障害者福祉社会館生活介護事業報告	45
5. 品川区立心身障害者福祉社会館自立訓練事業報告	47
6. 相談支援事業 品川区旗の台障害児者相談支援センター事業報告	49
7. 品川区中延、大井第二、八潮障害者計画相談支援事業所事業報告	51
9. 品川区障害者地域活動支援センター事業報告	53
9. 障害福祉サービス事業 福祉工場しながわ事業報告	55
10. 障害福祉サービス事業 鮫洲なぎさの家事業報告	57
11. 障害福祉サービス事業 さつき事業報告	59
12. 保育所 八潮中央保育園事業報告	61
13. 保育所 品川区立八潮北保育園事業報告	63



その他

1. 品川区立高齢者住宅 八潮わかくさ荘事業報告	65
2. 品川区立高齢者住宅 大井倉田わかくさ荘事業報告	66
3. 品川区立大井三丁目高齢者憩いの場事業報告	67

品川総合福祉センター行動指針

幸せを追求する権利、文化的で健康な生活をする権利を擁護します。
私たちは、福祉の実践を通し、人々の良心と優しさと結び合い、福祉社会の実現を目指します。

I 活動の目標

1. 私たちは、福祉サービスを必要とする方たちの杖になるよう努力します。
2. 私たちは、孤独の中にいる方たちの友となるよう努力します。
3. 私たちは、身体に障害を持つ方たちの補装具となるよう努力します。
4. 私たちは、言葉のない方たちの言葉を聴く努力をします。
5. 私たちは、施設を利用される方たちだけでなく、そのご家族の幸せの為にも活動します。
6. 私たちは、地域社会の福祉の為に活動します。

II 活動の指針

1. 私たちは、常に学習し、より良い支援、サービスの提供に努めます。
2. 私たちは、いつどこでも、誰に対してでも、丁寧で優しい言葉で接しています。
3. 私たちは、常の人権を意識して、支援やサービスを実施します。
4. 私たちは、常に利用者の方たちの生活空間や利用される場所の清潔と美化に努めます。
5. 私たちは、常に職場の整理整頓と美化に努めます。

令和4年度 法人事業報告

1. 重要課題

- (1) 令和5年度を起点とする中長期計画（第二次未来想像図）を作成した。職員、利用者からのアンケートを集約し、ご家族・地域住民からの声（第三者評価結果、イベントにおけるアンケート）を基に今後10年に向けて法人に求められている重点課題を抽出し、利用者・家族・職員・地域からの信頼を得るための具体的な行動計画をまとめた。
- (2) 中期経営計画の未達成課題を整理し具体策をまとめた。
- ①収支改善に向けて、収支計画進行管理シートを基に改善点について共有し、施設単位の収支改善を取り組んだ。障害系施設は一定の改善がみられたが、高齢系施設は厳しい状況が続いている。
- ②人権部会では職員アンケート結果のフィードバック後の意見を整理し、具体的な取組み項目を整理した。虐待防止に結びつく取組みの他、職員間の関係性やハラスメントの問題が虐待を引き起こす土壌となる可能性等課題点を話し合った。
- ③人材部会では働き方改革基本方針の取組み課題の進捗や職員採用、休暇取得状況の職種間の差や施設間の協力体制等について話し合った。
- ④各部会の取組み課題整理の後、重点課題について達成目標、実施内容を整理し第二期中期経営計画（令和5年度から3年間）として作成した。
- (3) 品川区立八潮北保育園は令和4年4月より運営業務委託となり順調に施設運営を進めることができた。
- (4) 八潮中央保育園の大規模改修は旧八潮南保育園に仮移転し、8月より改修工事を進め、予定通り3月に終了した。
- (5) 八潮南特別養護老人ホームの増改築計画について、品川区に協力した。グランドの土壌調査などが実施された。
- (6) 障害系事業所の障害重度化と高齢化に関して、会館では医療ケア対応者の受入れを開始した。また各施設ごとにプログラムの見直しなどで利用者ニーズに合わせた内容を検討し実施した。
- (7) ICT技術導入に向け検討委員会を開き、利用者支援と法人管理部門それぞれの技術導入を検討した。
- (8) 新型コロナウイルス感染防止に関する職員の意識が向上し、年末から年始にかけての第八波ではクラスター発生を最小限に抑えることが出来た。
- (9) 法人設立40周年記念行事について記念誌作成と記念式典開催準備を進めた。

2. サービス管理

- (1) 職員の人権意識やサービス意識の向上に向け、虐待防止委員会、サービス向上委員会などの活動により、職員の支援状況の実態把握、接遇向上への取組み、人権擁護意識の醸成を図った。特に複数の虐待案件の発生にあたり防止策や法人内チェック体制構築に向けて虐待防止委員会、施設長会で情報共有し検討した。
- (2) 苦情解決第三者委員会、サービス点検調整委員会を開催し、委員からの助言等を利用者サービスの向上に生かした。サービス点検調整委員会はコロナ禍の影響で回数を減らす対応をとったが年度後半にはヒアリングを再開することが出来た。また、品川区サービス向上研究会の活動に参加し、同会作成の品川区版サービス自己評価を施設運営に活用した。
- (3) 施設稼働率向上に向け、施設稼働率向上担当課長（高齢者施設・障害者施設）を配置し、分野ごとの担当者会議を実施し、課題共有を図り、経営会議で情報共有、進行管理を行った。稼働率獲得について各施設の意識向上は進み、また、各分野ごと情報交換の機会や進行管理する体制が整えられた。来年度からは各統括群単位で統括施設長を中心に進行管理を行う。
- (4) 引き続き法人を上げて感染防止に取組んだ。定期的な検査体制の構築と感染防止対策の意識向上により大規模な感染拡大は回避できた。年度後半では感染対策をした上で面会や外出制限の緩和など利用者支援の質の向上に向けて各施設で検討し取組んだ。

3. 人事・労務管理

- (1) 職員採用に関しては、コロナ禍の影響で学校訪問等が難しく、就職説明会を随時開いたり、就職フェアの出展などで採用活動を行った。また、採用試験は応募者に合わせ随時実施した（年間31回実施）。オンライン採用試験が定着し、他県からの応募者への対応も幅が広がった。
- (2) 職員の健康・衛生管理の充実に向け、安全衛生委員会を中心となって働きやすい職場づくりに取り組んだ。
- (3) 新型コロナウイルス感染防止の対応として時差出勤、通勤経路変更、在宅勤務など各施設単位で時限的に実施した。また、入所施設中心に職員一斉PCR検査やスクリーニングの抗原検査を行政の援助のもとで全施設で実施することが出来るようになり、感染拡大を抑えることが出来た。

4. ガバナンス

円滑な組織運営の為、下記の会議、委員会運営を適宜行った。

(1) 理事会、評議員会、監事監査

6月 4日 監事監査 令和3年度事業報告・決算状況確認

6月 7日 理事会 令和3年度事業報告、決算、定時評議員会の招集

6月24日 定時評議員会 計算書類、財産目録の承認、役員等の選任
9月16日 理事会 補正予算、規程改正
11月 8日 監事監査 令和4年度中間事務監事監査
11月18日 理事会 中間事務監事監査報告、評議員会招集事項、規程
制定等
1月24日 理事会 補正予算、規程制定
評議員会 中間監事監査実施状況報告
3月22日 理事会 令和4年度事業計画、当初予算、人事案件等
・監事監査前には会計監査法人による往査を実施し、監事に報告した。

(2) 経営会議

月1回、理事長が開催。経営方針を検討する場とし、重要案件の検討、毎回前月迄の稼働率および事業進行管理、経営分析等を行った。また、必要に応じて臨時の会議を開催した。

(3) 施設長会

月2回開催。経営会議決定事項の周知、全体調整、情報の共有化を進めた。また、継続してオンラインでの会議参加も可能とした。

(4) 防災管理委員会

法人の消防計画に基づき開催した。

(5) 安全衛生委員会

法令に則り、法人全体で月1回開催し、職場の安全衛生向上を進めた。オンライン開催が定着し感染防止、業務効率化を図られた。

(6) 虐待防止委員会

法人全体で月に1回開催し、虐待防止に係る情報提供・共有を進めた。事業所単位ではそれぞれの状況に合わせ開催した。

(7) コンプライアンス委員会

法人内の事業の法令遵守状況の検証、組織活動の適正化を進めた。経済的虐待案件に関連し、現場レベルでの現金取り扱いのマニュアルを精査し、不十分な事業所には指導を実施した。

(8) リーダー会

オンライン開催が定着しより効率よく活動をすすめられた。各部会委員会との連携を意識し、特に人権部会、人材部会、中長期計画策定委員会などにリーダー会メンバーを配置し、部会や委員会で必要な意見収集等をリーダー会で行うなど機能を活かした。

5. 研修

(1) 研修委員会により、人権意識の定着、モチベーションの向上、専門性の向上等で職員の資質向上を目指し研修内容を検討した。今年度は理事長研修を実施し法人内の価値観の共有を図ったり、特別研修で「自己覚知研修」を開き職員の資質向上を図った。

(2) しなふく向上発表会・研修報告会の他、法人内研修の多くにオンラインを取り入れ、感染防止及び効率的な開催を意図し実施した。

6. 地域社会への貢献事業

地域交流事業として、10月に「しなふく紅葉フェスタ」、3月に「ボランティアの集い」を予定したが、新型コロナウイルス感染防止のため今年度も中止した。集合イベントの代替えとして、「心つながり一地域とともに」を企画し、八潮地区にて地域の方々にメッセージをいただき当法人への期待や意見を伺う機会を設けた。

福祉啓発イベント「ヤングケアラーのためにできること」を開催した。新たな地域の福祉ニーズに法人としてどう向き合うかという事と地域に発信する趣旨に区の後援をいただき、多くの皆様にメッセージを発信することができた。

7. 防災

法人防災計画に沿って防災訓練・教育及び防災設備点検など実施した。法令に基づき法人内各事業所において、毎月、避難、消火等の防災訓練を実施し、年に1回以上震災想定訓練を実施した。

福祉避難所については各拠点にて品川区担当配置職員と顔合わせを行い、今後の連携の上で、その足がかりとなった。

8. 広報

法人広報紙「しなふくニュース」を地域、利用者に発行し、職員向けに職員報「風よ～」を発行した。

ホームページ及びSNSを活用しての法人広報について、令和3年度に施行した規程に則り、運用を進めた。ホームページ更新については進捗の遅れがあったが、SNSについては少しずつではあるが施設単位で活用が進められた。来年度は地域福祉課及び経営改善特命課が中心となりホームページ及SNSの活用を強化する。

令和4年度 法人研修事業報告

1. 総括

社会全体が人材不足の状態の中、介護・福祉業界はより採用の困難な状況が続いている。当法人においても人材確保、育成はもとより、「定着」が大きな経営課題となっている。事業の継続性を担保するためにも次代を担う人材育成、施設サービスの質的向上を目指し、各職員への階層別研修、新任時の研修を強化した。法人全体で人権擁護研修や自己覚知研修を実施した。その他、新任、階層別研修においても利用者の権利擁護、サービス検証の内容を盛り込んできた。また、同様の外部研修にも参加し、参加者がその内容を他者に周知することを確実に行ってきました。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、外部研修についてはオンライン形式での実施が進み、多くの職員が参加できた。定期的に研修委員会を開催し、コロナウイルス感染症対策の観点からオンライン形式や規模を縮小して開催する等、試行錯誤しながら、新しい生活様式に沿った研修の在り方を実践した。

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
しなふく向上発表会・研修報告会	各施設が取り組んでいるサービス向上の内容を発表し合い、相互に研鑽し合う。また、法人代表として外部研修受講の職員が、他の職員に内容を共有する	全職員	令和4年 2月中 (オンライン形式)	全職員 305名

(2) 階層別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
新任職員研修	法人職員としての意識、誇りを醸成とともに、基本的な知識や技術の習得を目指した。仕事での目標構築を側面援助する	令和4年度採用職員および令和3年度中途採用職員	令和4年3月23日(水) ～3月28日(月)	19名
新任職員現況報告会	3か月経過した時期の現況報告会を実施し、基本的な知識や技術の習得状況を確認した。仕事での目標構築を側面援助する。	令和4年度採用新任職員	6月中アンケートのみ実施	18名
新任職員現況報告会及び新任職員研修	各事業所で職務の習得が進み、仕事を任されるようになってくる時期に同期職員と現状を確認する機会とする。 試用期間終了の時期に行う。	令和4年度採用職員および令和3年度中途採用の職員	令和4年9月30日(金)	13名
初級職員研修	2・3年目を迎える後輩指導が出来るような話術、行動の意識付け、さらに法人理念を再確認する。	採用2, 3年目の職員	令和4年7月8日(金)	18名
採用2年目職員現況報告会	各事業所で、仕事を任される量が増えてくる時期に同期職員と現状の業務に対する課題を確認する機会とする。	令和4年度採用2年目職員	令和4年7月8日(金)	13名
中級職員研修	中堅職員としての組織での役割を明確に意識づけ、資質の向上を図る。	採用後5, 6年目の職員	令和4年10月5日(水)	16名
特別上級職員研修	10年間の経験を振り返り、将来への自己変革の契機とする。 研修企画を通じて、関係調整等全部をプロデュースする。	採用後10年目の職員	令和4年7月1日(金)～15日(金) (オンライン形式)	9名
リーダー初級・候補者研修①(外部)	リーダー候補者および初級リーダーとしての役割、意識を醸成し、現場を預かる役割としての意識付けと育成を図る。	リーダー候補者及びリーダー昇任3年以内の者	令和4年5月27日(金)	17名
リーダー初級・候補者研修②(内部)	リーダー候補者および初級リーダーとしての役割、意識を醸成し、現場を預かる役割としての意識付けと育成を図る。	リーダー候補者及びリーダー昇任3年以内の者	令和4年8月19日(金)	10名

管理職養成研修	管理監督者候補としての役割、意識を醸成し、育成を図る。	全リーダー職	令和4年11月4日（金）	17名
リーダー研修	自信をもって部下の育成や市道をできるよう、外部講師を招聘して実施する。	全リーダー職	令和5年1月10日（火）	40名
中途採用職員研修	年度中途の職員を対象に組織体制及び研修体制を学習し、法人の理念及び介護技術等の基礎的な内容の習得を目指とする。	令和4年度中途採用の職員		
非常勤職員研修	品川総合福祉センターの職員の一員として法人の理念を理解し、チームスタッフとしてそれを意識した行動ができるようにする。接遇に関するテキストにより課題を出し、レポートを提出する。	非常勤職員	令和4年10月13日（木）～令和4年10月21日（金）	14名
管理者研修	品川総合福祉センター管理者として、テーマに沿った内容を習得、共有することを目的とする	全管理職	令和4年10月27日（木）	16名

（3）技能研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
メンター研修	新規職員の相談役としてのメンターの役割や傾聴技術を学び、新人が職場に馴染み、独り立ちできるように支援する。	メンター担当等	令和4年5月20日（金）	7名
救急法研修	対象者の支援や介護を行う場面に、緊急時に必要な動きをとれるよう学ぶことを目的とする	各事業所指名職員	中止	
特別研修	①SNS活用研修 ②自己覚知研修 職員より、要望として挙がった内容を実施する。	全職員	①令和4年6月14日（火） ②令和5年2月24日（金）	①24名 ②16名

※介護技術研修は各事業所ごとに現認研修として行った。

（4）目的別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
人権擁護研修	法人全体で共有が必要な「権利擁護とハラスメント」の演題で講演。人権を理解し、虐待のない職場環境を構築する。	全職員	R4年11月25日（金） (集合およびオンライン形式)	全職員 293名
理事長研修	法人全体で共有が必要な法人のこれまでの歩みを振り、50周年へ向けた課題についての確認の機会とした。	全職員	R4年9月27日（火） (集合およびオンライン形式)	全職員 337名
福祉施設の看護師研修	健康支援室を中心に、スキルアップや各事業所看護師が専門職としての意見交換や情報共有を基に業務の統一化を進める。	本部健康支援室専任看護師及び各事業所看護師	①令和5年2月9日（木） ②令和5年3月9日（木）	①16名 ②13名

（5）自己啓発・資格取得支援

- ・職員の資格取得を推進した。
- ・職員のスキルアップに向け専門機関、行政等が主催する研修に参加を推進した。
- ・人権部会と連携し、自己覚知研修特を別研修して実施した。

（6）その他

- ・関係機関の人権研修に精力的に参加し、参加者は必ず職場へ内容を周知した。
- ・各事業所の現任研修において利用者の権利擁護の検証を必須とした。
また虐待防止研修の実施を必須とした。
- ・介護プロフェッショナルのキャリア段位制度については継続検討とした。

令和4年度 地域福祉課事業報告

1. 総括

- (1) コロナ禍の地域交流イベント「心のつながり地域とともに2022」を昨年より地域との関わりを増やした内容で拡大開催した。
- (2) 地域社会課題である「ヤングケアラー」に関する福祉啓発講座を、会場とWEBのハイブリッド開催で行い、区内・都内・地方から定員を超える114名の参加となった。
- (3) 広報活動については、企業に向けた、法人の「コロナ禍のボランティアの受入れ」についてPRを行い企業ボランティアとの関係強化を行った他、利用者の活動紹介動画の作成や啓発講座の広報に力を入れ、活発的な法人の紹介を行った。ホームページのSNSの運用について、法人職員研修を開催した。

2. 事業内容

(1) 各種教室

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部を除き中止とした。手話舞踊と手話講座については感染対策を徹底し、会場を八潮地域センターに変更し継続して開催した。地域区民で構成される手話舞踊については、40周年記念行事での発表に向け、約半年毎週集まり練習した。

〈各種教室実績〉

事 業 名		実施回数	延人数	登録者数	実施曜日・時間
ルク サ	絵画教室	中止	0	13	第三日曜日 14:00~16:00
	生花教室	中止	0	8	第二日曜日 13:00~15:00
	手話講座・手話舞踊	32	392	40	第一日曜日 13:00~15:00 11月～毎週日曜 (舞踊のみ)
	令和4年度計	32	392	61	
	令和3年度計	6	88	54	

(2) 地域交流事業

①新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「しなふく紅葉フェスタ」(令和4年10月開催予定)は中止となつたが、「心のつながり地域とともに2022」を企画開催した。コロナ禍、感染予防対策を行い準備に係る職員が限られる状況下、前年よりも地域との関わりを拡大した内容で開催した。企業ボランティアの協力も得て、貴重な地域貢献・地域交流の機会となつた。

開催時期 令和4年10月23日（日）10時～12時（本部駐車場）

メッセージ掲示期間令和4年11月～12月中（本部ロビー）

内 容 来場者に40周年を迎える法人へのメッセージを記入いただき、野菜と果物の詰め合わせを差し上げた。作品販売、ヨーヨー販売、法人紹介パネル展示、後援会からのお菓子配布、企業ボランティアの皆さんの仮装でお出迎え、横断幕掲示、八潮地区チラシ配布、広報、本部ロビーの掲示装飾を実施した。品川ケーブルTVの取材があり、TV放映で紹介された。

来場者数 209名 いただいたメッセージ178名（館内に掲示）

② 《地域行事参加》

地域における開催予定の行事は、中止となるもの以外、開催されたものについて

は積極的に参加した。

5月「八潮ファミリー運動会」中止

7月「八潮連合自治会主催：八潮まつり」中止

8月「八潮北地区避難所まつり」中止

9月「品川区社会福祉協議会主催：ふくしまつり」中止→動画提出で参加した。

12月9日～11日 目黒街角クリスマス「E A S E」主催 参加

(作品販売・かもめ・さつき・サンかもめ・プチレーブパン販売)

3月5日 八潮美化運動 参加

・八潮地区の各種会議（八潮自治会連合会高齢者福祉事業部会、八潮祭り実行委員会、支え愛活動会議・八潮学園地域健全育成運営協議会等）に出席した。

・毎年、障害4施設の利用者が参加している「みんな集まれ！ふくしまつり2022」は中止になったが、主催者の方針で動画の紹介に変更。リズム舞踊の発表動画を作成し提出し、品川区のホームページで放映され、施設の活発な活動を紹介できた。感染対策を行い、週1回施設ごとに分かれて練習を実施し、発表の機会に向けた練習は、利用者の楽しみ、やりがいを創出する機会となった。

(3) 福祉啓発・教育

① 《こどものつどい》

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止

② 《青少年体験ボランティア2022》

品川ボランティアセンターの事業である、青少年体験ボランティア活動の受け入れに協力して実施した。感染拡大防止の為、一部日勤事業所のみで受け入れ実施。地域福祉課では、コロナ禍で受け入れ施設が減ったため、福祉体験プログラムを企画。参加者の都合に合わせ短い期間で様々な福祉体験ができる内容を用意。点字・手話・車椅子体験、障害者の接し方の基本を学び、本部ロビー装飾を参加者で仕上げるプログラムを行った。

③ 《教育機関からのボランティア体験学習・見学の受け入れ》

区内の中学校と小学校からの依頼を受け、障害者の理解と福祉の仕事について説明・体験の機会を企画し、実施。福祉への理解促進につなげた。

・令和4年12月7日（水）

品川区立八潮学園2年生の生活科見学「町たんけん」の受け入れ 18名

・令和5年2月2日（木）

品川区立品川学園7年生 「企業説明会体験学習」 111名 25企業参加

福祉介護の仕事について、体験を通じ福祉の仕事を知っていただく企画を行った。

・令和5年2月22日（水）

品川区立大崎中学校7年生 福祉講座 77名対象

かつて法人が自立支援を行った利用者（脳性まひによる四肢体幹機能障害があり自立生活をしている方で、大崎中学校卒業生）を講演にコーディネートした。ご本人のお話をサポートし、講話を行った。

④ 《福祉啓発講座の実施》

地域のニーズから、品川区子ども家庭支援センターと連携し、「ヤングケアラー」に関する講座を、会場とWEBのハイブリッド開催で行った。品川区と品川区社会福祉協議会より後援をいただき、当日は定員を超える会場参加が集まった。地方か

らのWEB参加者も多く、地域の問題意識の高さが伺えた。区と地域関係機関とのつながりも増え、法人への期待を参加者から強く感じる機会となった。

開催日：令和5年3月3日（金）14時～16時

講演者：町亞聖氏（フリーアナウンサー・元ヤングケアラー）

場 所：大井町きゅりあん大会議室

参加者：114名

（4）ボランティア

- ①企業ボランティアとの連携強化を行った。企業ボランティアの貢献を外部にも発信し、法人とも良い関係が継続しており、次年度はさらに増回希望が出ている。
- ・しながわCSR企業連絡会にて講話。令和4年7月
「コロナ禍で求められるボランティア活動について」
 - ・「企業ボランティアアワード」（東京ボランティア・市民活動センター主催）へ企業の推薦活動を行い企業への感謝状をいただく。令和5年3月
 - ・秋のイベントにも3年ぶりに企業ボランティアのサポートをいただき、イベントが無事開催できた。令和4年10月
 - ・コロナ禍、受け入れを開始した企業ボランティアについても環境美化活動以外の活動希望が増回し、本部含め法人事業所数か所に活動が広がり助けられている。
- ②ボランティアの受け入れ窓口として、施設とボランティアとの連絡調整をした。
- ③法人に登録している定期ボランティアに、年賀状、近況報告を兼ねた感謝のお手紙等を配布・郵送した。
- 《ボランティアのつどい》
- ・感染拡大予防の為中止となった。（令和4年3月開催予定は中止）
- 《ボランティア活動実績》

施 設	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数	人数	延べ人数
かえで荘	0	0	0	0	0	5
かもめ（身体）	0	0	0	0	0	0
かもめ（知的）	0	0	0	0	10	10
さつき	0	0	0	0	0	0
サンかもめ	9	9	0	0	22	39
八潮在宅サービスセンター	0	0	26	49	41	151
大井在宅サービスセンター	100	342	60	303	108	373
中延特養	77	111	45	68	18	24
中延在宅サービスセンター	74	242	0	0	0	0
福祉工場しながわ	0	0	0	0	0	0
心身障害者福祉社会館	111	176	127	215	102	170
八潮南特養	9	187	11	188	11	132
大井三丁目高齢者憩いの場	0	0	0	0	0	0
地域福祉課	139	162	57	127	67	118
八潮中央保育園	0	0	0	0	0	0
合 計	519	1229	326	950	382	1022

注] 人数・延べ日数は、月の合計を12か月分集計したもの。

事業所によっては、新型コロナウイルス感染拡大予防の為活動を縮小及び活動中止中

(5) 広報活動

- ① 〈しなふくニュース〉(年4回 各1, 900部発行 No.152～No.156)
品川総合福祉センターの広報紙「しなふくニュース」の編集、発行を行った。
40周年の特別号に向けて、紙面構成を工夫し発行した。定期的にホームページの機関誌紹介に掲載した。
- ② 〈ボラボーラ〉(随時 400部発行)
平成7年12月から、八潮団地向けミニ情報(B5サイズ1枚)として発行。
内容は、お知らせ、ボランティア募集等。
- ③ 〈ホームページ〉
 - ・定期的にお知らせページの更新を行い、事業所の利用者新作品の紹介や法人事業の紹介を行った。
 - ・ホームページ検討委員会において、昨年度進めたSNS運用については、今年度「SN S活用研修」行ったが、各事業所でのスタートに至らず、促進のためのサポートができなかった。ホームページの紙面内容構成を検討、施設・業者との調整を行っているが、スムーズに進まなかつたため、継続課題とし、次年度早急に進めていく。
- ④ 〈その他〉
 - ・啓発講座における広報活動では、区内各所の関係機関や区の各課や八潮地区自治会長や地区民生委員等の地域の会合に出向き、地域福祉ニーズについての情報交換や共有を行い、法人の役割に期待する声をいただき今後に繋がる機会となった。
 - ・ロビーの壁画装飾の掲示については、年間10回の装飾変更を行い、利用者作品の披露の場や利用者紹介を行い、利用者の自己実現の場となった。利用者のご家族は、掲示に合わせて写真を撮りに来館される方もあった。また掲示装飾を保育園園児や地域のボランティアや青少年らの協力を得て行うことで地域交流や福祉教育に繋がっている。
 - ・広報しながわ・品川区のホームページ・ケーブルTVへ、法人事業についての紹介を依頼し、ふくしまつりへのリズム動画、講座・フェスタ等広報へ繋げた。
 - ・利用者のリズム舞踊について動画を作成し、ふくしまつりの施設紹介の中で品川区のホームページに掲載され、法人障害施設の活発な活動を紹介した。

(6) 募金活動

赤い羽根共同募金の街頭募金参加を中止し、募金活動の一環としてミニバザーを行
売り上げと職員の協力により募金を行った。

(7) その他 〈器具・器材などの貸し出しサービス〉

地域関係機関等へ、地域交流の一環として催事用機器・車椅子等の貸し出しを行った。

(8) 事務局活動

後援会事務局

法人後援会の円滑な活動のために事務局としての役割を担った。40周年事業に向けた調整や代表変更等、例年にはない事項があったが滞りなく実施した。

- ・後援会役員との連絡調整（会長変更に伴う連絡調整や手続き等を行った。）
- ・幹事会、総会の開催（令和4年度総会は紙面開催とした。）
- ・会費、寄付金、募金箱等の会計処理・後援会ニュース年2回発行・その他必要な事務。

令和4年度 かえで荘事業報告

1. 総括

- (1) 稼働率については、令和4年3月から4月にかけての大きなコロナクラスターにより、入所調整の開始時期がズレ込み前半は苦戦した。その後、毎月複数名の入所者を迎えていたが、退所者の数が上回る月もあった。加えて、職員のコロナ陽性が判明し、入所日を延期せざると得ない状況もあった。また、今年度の傾向としては、在所期間の長い方の退所が相次ぎ、新旧の入れ替わりの年でもあった。生活相談員と日々進捗状況を確認しながら調整を進め、年度末になりようやくほぼ満床の状態になった。年間を通じてショートステイは空床利用を積極的に受け入れた関係で、ショートステイの方は、目標稼働率を大きく上回る結果となった。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の予防に関しては、利用者のワクチン接種5回、職員の定期的なPCR検査を継続して実施した。職員の感染はあったものの、利用者への二次感染はなく落ち着いていた。しかし、年末にショートステイ利用者から感染が広がり（利用者8名、職員4名）2度目のクラスターとなった。迅速な初期対応により、前回のような広がりはなく20日程度でゾーニングの解除ができた。
- (3) 人権については、利用者への不適切なケアがみられ2月に品川区に対し報告した。その後訪問調査等があったが結果についてはまだ届いていない。しかし、事業所として不適切なケアに至った背景や原因等を検証し、未然に防ぐための取り組みが不十分であった。次年度は、小さな気づきやグレーゾーンの洗い出しなど職員間で話し合いやすい仕組みづくりをしていきたいと考えている。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度>		(令和5年3月31日現在)					単位：人	
要介護度	1	2	3	4	5	合計		
利用者数	1	4	23	28	23	79		

・平均要介護度 3.6（令和3年度3.6）
（※一時入所含む）

利用者のうち要介護度3・4・5の利用者が92%を占める。

<年齢>		(令和5年3月31日現在)							単位：人	
	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計		
男	1	0	1	7	3	3	0	15		
女	0	1	2	8	23	28	2	64		
計	1	1	3	15	26	31	2	79		

・平均年齢 88.1歳（令和3年度88.8歳）

・最低年齢 67歳 最高年齢 101歳

(2) 稼働率

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
利用率 (%)	90.0	92.9	98.0

3. 援助計画

(1) 機能回復訓練

機能訓練指導員としてあん摩マッサージ指圧師を配置。利用者の機能状態の評価を行い、多職種協働で個別機能訓練計画を作成、機能訓練を実施した。ショートステイを含む全利用者を対象に集団体操を実施、フロアごとに食堂に利用者が集まる時間帯等を考慮し行った。継続には利用者のニーズを分析し、居室変更等利用者の入れ替わりによる実施方法の検討が必要である。

<機能回復訓練実施状況> (令和5年3月31日現在 単位: 延人数)

年度		令和4年度	令和3年度	令和2年度
内 容	歩行訓練	128	134	99
	立位バランス	138	28	112
	関節可動域訓練	159	151	0
	上半身機能訓練	0	832	845
	下半身機能訓練等	0	81	5
	生活リハビリ	18, 553	15, 256	17, 743
合 計		18, 978	16, 482	18, 804

(2) 余暇活動

今年度もサークルのほとんどがボランティア主導のものであったため、ボランティア不在によりサークル活動がほとんど出来なかつた。唯一園芸サークルの活動ができた。サークルができるない分、集団体操や余暇活動を職員主導でおこなつた。また、料理サークルは管理栄養士が中心となり少人数制で実施し、利用者の皆さんから「またやってほしい」などの声が多く、大好評であった。

(3) 行事

①月例行事

定例でおこなつていたショッピングセンターへの外出や外食がコロナの関係でほとんど実施できなかつた。しかし、代行で買い物をおこなつたり、緑道公園や屋上など近隣への散歩をしたりした。また、食の楽しみである出前食は月ごとに担当を決めて定期的に、利用者の希望を聞きながら開催した。その他、お楽しみ会は屋内で楽しめるイベントを中心に職員が計画に基づき実施した。

②年間行事

コロナウィルス感染症のまん延防止のため、年間の行事のほとんどを縮小したり、内容を変更したり工夫して実施したものもあるが、結果的にできないこともあつた。しかし、利用者の生活に潤いと楽しみをと考えながら工夫して行事をおこなつた。

(4) 利用者の健康管理

入院延べ人数、入院延べ日数はほぼ横ばいであった。ただ、コロナ関連での入院もあつたため、単純に比較はできないが、入院中に食事が摂れない状況が継続すると、療養型医療機関への転院を進められるケースが増えており、3か月以上の

入院が減っている一方、そのまま入院し施設に戻れない方も少なくなかった。

<入院状況>

年度	入院延べ人員(人)	入院延べ日数(日)	平均入院日数(日)
令和4年度	101	1,361	13.0
令和3年度	103	1,450	14.78
令和2年度	80	1,160	14.5

(5) 食事

①多職種間での情報、データ共有または会議を行い、栄養ケアマネジメント利用者の栄養管理、給食管理に努めた。また、職員の現任研修では、食中毒予防と吐物処理の実技演習についての研修を実施した。施設での余暇支援の一環、食の楽しみとして、コロナ禍でも季節を感じていただけるよう、季節食材を使用した行事食提供や利用者の意向を反映した料理サークルを実施した。

②実習に関しては、今年度は管理栄養士施設の実習生の受け入れを実施した。

<食事形態の状況> (令和5年3月31日現在、入院者除く実人員)

年度	ペースト食	きざみ食	あらきざみ食	経管栄養	一般食
令和4年度末	9	32	22	4	11
令和3年度末	10	21	21	6	12
令和2年度末	13	26	26	7	9

4. 会議・研修

(1) 研修

現任研修においては、法令上必要な研修と知識の習得を目的とした研修を中心に行なった。ただ、コロナの関係で開催時期が後半に集中してしまった。また、今年度も外部研修はオンライン研修が多かった。外部講師を招いた虐待防止研修では、他法人との交流研修の機会が作られた。

(2) 会議

感染防止のため職員会議については、1回当たりの時間を短縮したり、人数制限や回数の調整をするなど定期開催が困難であった。また、職員の休職やコロナ感染の状況等で予定回数の実施ができなかった。

(3) 委員会活動

サービスの向上と職員の資質の向上を目的に、サービス向上委員会、事故防止委員会、身体拘束適正化・虐待防止委員会、感染症対策委員会、褥瘡予防委員会と、介護の基本である排泄、入浴、口腔ケア、食事に関する担当と組み合わせて実施した。今年度も2ヶ月に1回の定期開催とした。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウィルス感染症のまん延防止のため、家族との面会を制限せざるを得ない状況もあったが、できるだけ直接面会の機会を設けるようにし、予約にてリモート面会に切り替えるなど工夫をしながら開催した。そのため、令和4年度は面会者数が大幅に増えた。

<面会状況>

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
面会者件数	382件	105件	99件
面会延べ人件	751人	283人	115人

(2) ボランティア

今年度も新型コロナウィルス感染症予防のため、ほとんどのボランティア活動を中止している。

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	0	0	その他	2	17
理美容	0	0	令和4年度計	5	32
園芸	3	15	令和3年度計	2	53
行事	0	0	令和2年度計	2	10

(3) 実習生

新卒採用を視野に入れながら、実習生を積極的に受け入れる体制を整えていたが、学校側の実習希望時期とすり合はず、今年度は1校も受け入れられなかつた。来年度はできるだけ多くの実習生を受け入れていきたい。

(4) 地域社会との交流の推進

法人が主催する地域交流事業にはほとんど参加できなかつた。また、地域の保育園等との交流もほぼできなかつた。コロナが落ち着いたら、八潮北・東大井保育園との定期交流を再開し、共生社会教育の一端を担っていきたい。

6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

少数だが定期利用者が定着しリピート利用が続いている。しかし、施設入所、ご逝去等の理由でリピーターの顔ぶれも1年で大きく変わっている。送迎については、今年度も入退所時の家族付き添い不要で対応。

申し込み時点での稼働率は40%程。申し込み以降の調整や緊急入所の受け入れで平均90%以上の稼働率を保つことができた。

(2) 利用実績

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
延べ日数	1,982日	1,760日	1,508日

(3) 稼働率

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
利用率 (%)	90.2%	80.99%	69.2%

7. 防災

コロナのまん延時期には、規模を縮小したり、内容を変更したり、工夫しておこなっていたが、感染リスクが高まってからは中止することもあった。全体としては、防災計画に基づき必要な訓練の実施はできた。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

修繕・改修関係	機械浴槽、リクライニング、車椅子、センサー等
備品購入関係（介護関係）	特殊浴槽、乾燥機、車椅子、センサーベット等

令和4年度 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告

1. 総括

- (1) 令和4年度も新規採用職員（新卒）4名を配置し新年度を迎えた。退職者は無かつたが経験のある職員が法人内異動となり職員の若返りが進み介護職員の平均年齢は30.8歳、平均経験年数は6年となっている。職員の病気欠勤、産前産後休暇、育児休暇の取得により派遣職員を導入した。
- (2) 若手職員が半数を占めているため、職員教育に力を入れ、事業所内の現任研修を重視している。また、業務の合間に研修が行えるようオンライン研修を導入した。
- (3) 目標稼働率は收支状況を考慮し96%に設定した。入所調整の段階から、フロアリーダー、生活相談員等を中心として多職種で連携しスムーズな調整を行ったが、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生、空調工事の影響による計画入院等により目標稼働率は達成できなかった。
- (4) 看取り介護については、事業所の日常のケアとして定着している。今年度は12名の利用者に対応した。管理医の協力により、状態の低下が見られ始めた際は早めにインフォームドコンセントを設定し状況の説明を丁寧に行い、終末期の対応についてご家族等で考える時間を作り、希望された方に看取りケアを実施している。看取り対応を前提に退院を予定していた利用者が、病院内でコロナウイルスに感染しご逝去されるケースが続けて発生し、ご家族・職員共に悔いの残る結果となった。ご利用者の最期に立ち会う機会が多く、職員のメンタルサポートも重要となっているため、臨床心理士によるグループミーティングを導入した。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度> (令和5年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	申請中	合計
利用者数	3	6	27	26	14	2	78

・平均要介護度 3.6 (令和3年度 3.7)

利用者のうち要介護度3以上の利用者が88.2%を占める。

<年齢> (令和5年3月31日現在 単位：人)

	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~99	100~	計
男	1	2	1	5	4	5	0	18
女	1	0	2	9	14	30	4	60
計	2	2	3	14	18	35	4	78

・平均年齢 88.5歳 (令和3年度 89.2歳)

・最低年齢 68歳 最高年齢 107歳

(2) 稼働率

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
稼働率 (%)	93.0	97.1	97.7

3. 援助計画

(1) 日課・週課

心身の状態変化に応じてきめ細かく担当者会議を行い、多職種間での情報共有と意見交換を重ね、個別ケアを意識したケアプランを立案しサービス提供へと繋げている。居室担当者の役割の強化、モニタリングの適切な実施を行い、ご本人の望まれる暮らしに近づける実践につなげていった。

(2) 機能回復訓練

日常生活の中で、利用者自身の持てる力を發揮し、身体機能の維持向上を図るために自然と身体を動かすことを生活リハビリと位置づけて実施した。マッサージ師、理学療法士によるリハビリ計画に基づき個別の訓練を中心に実施し、一人ひとりの機能維持、向上に努めた。感染症予防対策を講じリハビリ室の利用も再開し、フロアでのリハビリと並行して実施している。

<機能回復訓練実施状況>

(単位：人)

	年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
内 容	歩行訓練	248	157	202
	立位訓練	380	223	250
	端座位訓練	104	43	65
	温熱療法（極超短波・ ホットパック）	12	4	13
	四肢体幹機能訓練	520	420	742
	生活リハビリ	40, 459	37, 429	37, 797
	集団リハビリ	350	511	626
	計	42, 073	38, 787	39, 695

(3) 余暇活動

感染症対策もあり外出等行動が制限されてしまうため、今年度も事業所内での活動を充実させた。ホーム喫茶では利用者の要望に合わせ、様々なメニューを取り入れた。また、担当を新人職員にしたことで、仕事に対するモチベーションの向上にも繋げることができた。園芸サークルについては園芸療法研修会のスタッフと施設職員が協力し、直接的な接触を避ける方法で定期的に実施した。

(4) 行事

①月例行事

お花見、敬老会、バイキング食事会など季節感のある行事を企画し、食事メニューにも工夫を重ね、利用者に喜んでもらえるよう、各階单位で企画・実施し、施設職員との距離感を縮める工夫をした。

②年間行事

中延複合施設の全体行事『くつろぎ祭り』『餅つき』は館内行事として実施し、入所者と職員が共に楽しむ行事として開催し、大好評であった。

(5) 利用者の健康管理

施設内でクラスターが発生し、23名延べ236日の入院となった。

<入院状況 単位：人・日>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
令和4年度	88	1,027	11.7
令和3年度	67	1,076	16.1
令和2年度	70	1,008	14.4

(6) 食事

委託業者と連携し食事提供を行った。利用者には好評だったが、コスト面で食材の調達が厳しい状況となっている。食材の高騰により給食での提供が難しいメニューについては、個別にデリバリーや喫茶イベントで対応している。その他、栄養ケア計画に基づき、医師、看護師、介護士等と連携し、その方にあった食事を提供してきた。また、各種栄養補助食品等を活用し、可能な限り経口摂取を行っている。

<食事形態の状況>

(実人数)

年度	ペースト食	極きざみ食	きざみ食	粗きざみ食	常食	経管栄養
令和4年度	8	8	18	30	14	0
令和3年度	4	8	22	32	13	0
令和2年度	12	8	20	28	5	2

4. 会議・研修

(1) 研修

品川福祉カレッジや東京都主催の権利擁護研修等、各種の研修に参加した。1.2年目の職員を対象に、社会人・介護職員としての基本事項を中心に、毎月の現任研修を実施した。全職員対象の現任研修ではパワーポイントを使ったプレゼンテーションについて各自が学び発表（紙面発表）を行った。

(2) 会議

サービス担当者会議・フロア会議等を必要に応じて、隨時および定期的に開催した。特にサービス担当者会議は、短時間でも細かく丁寧に行ない、隨時ケアを見直した。また、「役職者等連絡会」を月に2回程度開催し、様々な情報共有と意見交換、ケア方針等の確認を行った。

(3) 委員会活動

指針に基づき、事故防止、感染症予防、身体拘束廃止、床ずれ予防、看取り、虐待防止、サービス向上等の各委員会を隨時開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

感染症の影響により、事業説明会、懇談会を中止している。入所者の近況を伝えるため、写真を用いた手紙（個人ごと）を定期的に送付している。

<面会状況>

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
面会延べ人員	1,032人	850人	252人

(2) ボランティア

車椅子清掃等、間接的な活動の再開をしている。また、園芸サークルについては園芸療法研修会のボランティアスタッフが、直接の接触がない方法で活動した。

<ボランティア活動状況況>

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	0	0	行事	0	0
余暇活動	0	0	その他	7	19
介護士業務補助	0	0	令和4年度計	15	97
傾聴	0	0	令和3年度計	8	67
園芸	8	78	平成2年度計	70	896

(3) 実習生

実人員34人（令和3年度48人）、延べ日数は356日（令和3年度477日）の実習生（介護福祉士・社会福祉士・栄養士・看護師等）を受け入れた。介護福祉士養成校、社会福祉系大学の実習生（令和4年度卒業生）を令和5年度に採用の予定。

(4) 地域社会との交流の推進

感染症予防対策により、地域との交流事業は休止している。

6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

①定員10名②居室2階（2人部屋1室・個室2室）3階（2人部屋1室・個室4室）

(2) 稼動実績

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
延べ日数	3,392日	3,089日	3,279日

(3) 稼働率

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
稼働率（%）	92.9	84.7	89.8

申し込み数は平均25・6件と目立った変化は無かったが、感染症の影響でキャンセルが生じた。緊急利用については出来る限り受入を行うことが定着している。

7. 防災

防災計画に基づき、毎月1回の防災訓練及び震災想定の訓練を実施した。近隣住民との合同防災訓練は中止している。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

建物設備、備品類の経年劣化が目立ち、修繕や購入を進めている。

修繕・改修関係	冷温水発生機交換工事（区工事）
環境整備関係	遮光（断熱）フィルム
備品購入関係	介護用ベッド、自動体位変換機能付きエアーマット

令和4年度 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告

1. 総括

(1) 目標稼働率の確保

令和4年度も目標稼働率の確保に向けて、週1回の入所調整打ち合わせを行い、進行管理と情報の共有化を図りスムースな入所を進めている。見守りカメラやセンサーを活用しケアの質の向上、通院の早期対応等による入院者の削減に努め目標稼働率達成に向け行動したが、新規入所者と同等以上の退去者(ご逝去や転院)が出た為目標達成には至らなかった。新規入所は22名(令和3年度24名)で退所者26名と退所の方が多く、入院延べ日数も1,008日(令和3年度1,399日)と減少したが、新型コロナ感染症の発生のため新規入所を進められない期間があり、長期入院も含む空床が多く発生し、稼働率は目標に届かなかった。

(2) ICT の活用

令和4年度に本格導入したICTについては、記録システムの「ほのぼのNEXT」と見守りシステム「眠りSCAN」と「眠りSCAN EYE」を導入し活用してきた。月に2回の会議を行い、導入した機器の習熟度の確認や、導入後の状況変化の効果測定を行った。記録システムはデータの移行や操作の不慣れから、記録に時間が掛かり4月・5月の残業時間が前年比で25%程増加したが、導入後3ヶ月ほどで前年度と同様から減少傾向となり年間で7%程の削減が図れた。その他に職員が最も導入効果を感じたものは、見守りシステムのカメラだった。転倒事故などが起きた際の、検証が目で見て確認できる為、再発防止対策が正確にできるようになった。その為、転倒事故は前年に比べ12%(令和3年と令和4年の実数 85件→75件)ほど減少させる事が出来た。また、通院が必要かどうかカメラで確認できるため、通院の回数が減り職員の負担軽減に大きく効果が得られた。今後もシステムの習熟度を上げ、活用の幅を広げていきたい。

(3) 感染症の発生及び蔓延防止を強化する

新型コロナの感染予防については、引き続き消毒や換気等に努め、職員の健康管理についても、東京都による週1回のPCR検査の実施、ワクチン接種の推進等をしてきたが、8月中旬～9月には利用者9名(SS利用者含む) 職員3名の集団感染があった。そのためショートステイの休止、新規入所受け入れ中止としたため稼働率に影響を及ぼした。また、時期的に感染のピークと重なり、入院もなかなかできず、通常の救急対応も搬送までに時間がかかり、遠方まで搬送されるケースがあった。職員は感染リスクの中で業務を継続し、心身の疲弊が続いている。職員状況については、介護士、看護師ともに欠員があり、派遣職員を活用した。

(4) フロア間の連携

コロナ禍でフロア一間の連携を図る事が難しかったが、ゾーニングエリアに他フロアの職員を1週間ヘルプに出すなど、協力する事により複数のフロアに入れる職員を育成する機会が出来た。複数フロアに入る事が出来る職員が増えた事で、フロア間で協力する意識がうまれ今後のフロア一間の協力体制構築の基礎作りが出来た。

(5) 増改築への対応

区からの見学の対応や、八潮南からの要望を伝えるなど協力して増改築へ向け準備を行った。グランドの地盤調査なども実施し、確実に進んでいる。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度> (令和5年3月31日現在 単位:人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	1	10	22	27	17	77

・平均要介護度 3.63 (令和3年度 3.6) (※一時利用含む)

・全利用者のうち要介護度3以上の利用者が85.7%を占める。

<年齢> (令和5年3月31日現在 単位:人)

性別年齢	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~99	100~	計
男	2	1	1	3	7	7	1	22
女	0	1	6	8	8	26	6	55
計	2	2	7	11	15	33	7	77

・平均年齢 87.5歳 (令和2年度 89.6歳) ・最低年齢 53歳 ・最高年齢 102歳

(2) 稼働率 令和3年7月1日より定員89名に変更

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
稼働率 (%)	87.0	89.7	92.6

3. 援助計画

(1) 日課・週課

利用者本位の姿勢を重視し、利用者自身が生活の中で力を発揮できるよう支援しているが、食事や日常の基本的な介助が増加し、食事時間を利用者本位の時間に合わせて実施することが難しくなっている。また、入浴では機械浴対応が多く、介助の負担も大きくなっている。

(2) 機能回復訓練

①新型コロナウィルス感染症対策として、訓練指導員と利用者、また利用者間の距離を取りながら行える集団体操での訓練を、昨年同様にプログラムの中に取り入れた。集団での体操が難しい利用者や、ストレッチ・関節可動域訓練・介助下での筋力訓練が必要な利用者は、フェースシールド装着の上、換気を行い、訓練時間を10分程度に制限しながら訓練を実施した。

②活動性の高い方には、座位での四肢の屈伸運動(集団での体操を含む)、手すりや平行棒を使用した立ち上がり動作訓練を中心に、平行棒内や廊下での歩行訓練片脚立位訓練等を状態に応じて実施した。

③ベッドで過ごす時間の長い方は四肢・体幹の筋力訓練と、他動運動・ストレッチ訓

練を行った。また、筋緊張を緩和し、拘縮と褥瘡予防の為に臥床姿勢や座位姿勢の調整（ポジショニング）を実施した。

- ④動作の介助（特に起居・移乗動作）では介護士と機能訓練指導員が協同で動作の評価を行った。立ち上がる前に足を引く、体幹を前傾させてから立ち上がる、といった「身体機能を維持するための介助」を取り組み続けた。繰り返し行うことで動作の再獲得や筋力の維持に効果が認められた。また、これまでできていた動作が、難しくなった方へは本人と介助者の双方に負担の少ない介助方法を検討し安全に行える方法を実施している。
- ⑤令和4年度より、グループ体操を試行している。

<機能回復訓練実施状況>

(延人数)

年度		令和4年度	令和3年度	令和2年度
内 容	歩行訓練	32	22	26
	立位バランス訓練	96	40	89
	上肢機能訓練	301	767	1,114
	下肢機能訓練	333	1,163	1,326
	体幹機能訓練	67	526	778
	グループ体操	678	未実施	未実施
計		1,507	2,518	3,333

(3) 余暇活動

新型コロナ感染症予防のため外出は制限されたが、近隣の散歩は回数は少ないものの実施した。保育園等との交流は新型コロナ感染状況により実施していない。

(4) 行事

施設内では、フロアをまたがない形で七夕や節分等の季節の行事や、花の植え込み、書初め等を実施した。各フロアから余暇担当を選出し、計画、実施に向けて取り組むことが定着した。

(5) 利用者の健康管理

総括リーダーを要として、看護師、医師、介護士が連携して対応した。新型コロナウィルス感染症によるクラスターが発生した。施設内療養となるケースがあり、嘱託医と連携して対応した。また、東京都の即応チームの派遣を依頼しゾーニングの指導など協力して頂いた。高齢者医療施設の増設もあり、昨年度よりスムースに入院する事が出来ている。入院者については、長期に入院する方が少なかった為、昨年度より入院者数が減っている。

<入院状況>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
令和4年度	76	1,008	13.2
令和3年度	92	1,399	15.2
令和2年度	96	1,679	17.5

(6) 食事

献立は旬の食材や季節メニューを取り入れ、月に一度の選択食も継続して実施したまた、高齢者で課題となりやすい便秘や皮膚トラブル予防のため、喫食率を考慮した食材選びや献立作成をした。摂取量の低下がみられる利用者には、食事量の調整及び栄養補助食品の付加を行い、栄養状態低下の防止に努めた。

＜食事形態の状況＞ (実人数:人)

年度	ペースト	極刻み	刻み	粗刻み	一般食	経管栄養
令和4年度末	16	24	19	7	11	1
令和3年度末	12	26	20	7	8	3
令和2年度末	13	21	28	6	10	3

4. 会議・研修

(1) 研修

法人の職員研修、品川福祉カレッジ、東京都社会福祉協議会の研修等へ参加した。リモートの実施が増え、現任研修は感染状況により、書面開催または集合開催とした。感染症対策はシュミレーションを4回行い全常勤職員が参加している。また、ICT関連の研修を三徳会の平塚橋特養と、中延特養、八潮南特養の3施設合同でリモートの研修を実施した。

(2) 会議・委員会活動

役職者連絡会、委員会活動（事故防止、身体拘束廃止、感染症対策、褥瘡予防、虐待防止）等のほか、隨時ケースカンファレンスを開催した。会議、委員会活動については、感染状況により参加人数を絞り込んだ。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウィルスの感染予防のため、基本的にはリモート面会で実施した。しかし直接面会の希望も多く聞かれた為、感染者が減少していた月は制限付きで直接面会を実施した。実施できる回数、人数等に制限があったが、家族の協力のもと継続できた。

＜面会・外出状況＞

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
面会延べ人員	420人	117人	534人

(2) ボランティア

新型コロナウィルス感染症予防の為、一般のボランティアの受け入れは中止し、非常勤職員のボランティア活動のみとした。

＜活動状況＞

(延べ人数)

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
ボランティア	193人	216人	142人

(3) 実習生

今年度はコロナ対応等あり実習生の受け入れは行えなかった。実人員 0 人（昨年度 1 人）、延べ日数は 0 日（昨年度 10 日）

(4) 地域社会との交流の推進

新型コロナウィルス感染症のため、体育館は施設内で導線が交わるため年間を通じて貸出中止したが、グランドは昨年から再開している。地域の総合防災訓練は今年度も中止だったが、美化運動は再開した為、参加している。

6. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）

(1) 実施概要 ・定員 11 名 居室 1 階多床室（4 人）2 部屋・個室 3 部屋
定員 11 名。新型コロナ感染症のクラスターが発生のため、休止日やキャンセルが発生し、目標稼働率に到達できなかった。

(2) 利用実績

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
延べ日数	2, 580 日	2, 703 日	4, 215 日

(3) 稼働率

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
稼働率 (%)	64.3	56.6	60.9

(4) その他

ショートステイでのリハビリの強化を図り、食事前、おやつ前等の体操を今年度も引き続き実施した。計 57 回実施、延べ参加人数 122 人。コロナウィルス感染症の流行により居室で過ごす方も増え、ショートステイを閉鎖した期間もあり、昨年度に比べて回数、参加人数共に減少している。

7. 防災

防災センター（ビル管理業者に委託）と連携し、毎月 1 回フロアを跨がない形で放送、連絡訓練・避難誘導・消火活動等の防災訓練を複合施設として実施した。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等（開設 12 年経過）

修繕・改修関係	汚物除去機、食洗器機等厨房設備、機械浴、衣類乾燥機等
備品購入関係	洗濯機、乾燥機買い替え、車いす、特浴機充電器等

令和4年度 グループホーム八潮南事業報告

1. 総括

(1) 目標稼働率の確保について

稼働率については、高水準で推移出来ていたがコロナウイルス感染症のクラスターによる入院で、稼働率が極端に下がる月があった。その為、年間の平均稼働率は令和3年度より下がっている。次年度はクラスターの経験を活かして蔓延防止に努め高い稼働率を維持したい。

入退所状況については、入所調整の際に区との調整が緩和された為、スムースな入所調整が行える様になり空床の期間が短く済むようになっている。

(2) 感染症対策について

コロナウイルス感染症については日々の消毒や換気等の他、職員は週1回のPCR検査と抗原検査を継続し、ワクチン接種を積極的に進めていった。また、蔓延防止に力を入れこまめな物品消毒や手洗い、うがいを敢行したが、クラスターを発生させてしまった。9月・10月と2ヶ月にわたりクラスターが発生し、利用者6名、職員4名の罹患があった。また2月にも利用者10名、職員4名の罹患があり、年に2度のクラスターが発生し思う様な運営が出来なかった。東京都の即応チームに協力を依頼しゾーニングの方法や感染対策の研修等を行いさらなる感染対策の強化に努めた。また、体調不調のあるご利用者の対応については、嘱託医、訪問看護ステーションと連携をとって対応した。

(3) 人としての尊厳を尊重して

法人で開催している人権研修に参加し、利用者本位の考えを再確認し実践に取り組んでいる。その他、認知症ケアの取り組みとして月に1回、勉強会を行い様々な認知症の対応について意見交換をし利用者支援の標準化に取り組んだ。

(4) 地域との連携に努める

コロナ禍ではあったが、近隣の散歩などを行い八潮の住人と言う意識付けが出来る様に務めた。近隣への買い物が出来ない状況の為、地域との交流が疎遠となってしまったが、歯医者やボランティア(ホタル観賞)等の社会資源の活用を行った。

(5) ICT活用について

令和4年度に本格導入したICTについては、記録システムの「ほのぼのNEXT」と見守りシステム「眠りSCAN」と「眠りSCAN EYE」を導入し活用してきた。月に2回の会議を行い、導入した機器の習熟度の確認や、導入後の状況変化の効果測定を行った。記録システムはデータの移行や操作の不慣れから、記録に時間が掛かり4月・5月の残業時間が前年比で7%程増加したが、導入後2ヶ月ほどで減少傾向となり年間で4%程の削減が図れた。また、通院が必要かどうかカメラで確認できるため、通院の回数が減り職員の負担軽減に大きく効果が得られた。今後もシステムの習熟度を上げ、活用の幅を広げていきたい。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度>

(令和5年3月31日現在 単位:人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	4	4	6	3	1	18

・平均要介護度 2.61 (令和3年度 2.74)

<年齢> (令和5年3月31日現在 単位:人)

	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~99	100~	計
男	0	0	0	0	1	3	0	4
女	0	1	1	3	6	3	0	14
計	0	1	1	3	7	6	0	18

・平均年齢 86.7 歳 (令和3年度 85.5 歳) ・最低年齢 74 歳・最高年齢 93 歳

(2) 稼働率

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
稼働率 (%)	92.4	97.7	92.4



3. 援助計画

(1) 日課・週課

新型コロナウィルス感染症の関係で、昨年度に引き続き、買い物などは職員主体で行ったが、メニュー決めや調理を中心に行ってもらった。また、散歩以外の外出も控えたことで、室内で行える体操等を取り入れ、筋力の維持に努めた。ご家族からの面会の要望が多く聞かれた為、感染対策を行いながら状況に合わせて窓越しの面会を行い家族との時間を少しづつ増やしてきた。

(2) 行事

お花見、ゆず湯、お正月、節分、ひな祭りなどの季節行事に力をいれて実施した。夏にはボランティアさんによる螢の鑑賞会も行い、大変楽しまれている。今年も恒例の梅ジュースづくりを南ユニットが行い、梅干しづくりは北ユニットで行った。昨年からチャレンジしており、今年は2回目となっている。利用者から梅干しづくりのノウハウが職員に伝授され、昨年より上手にできている。



(3) 利用者の健康管理

新型コロナウィルス感染症の関係で、嘱託医（内科・精神科医）や訪問看護と連携して健康管理を行った。発熱等新型コロナ感染症が疑われる場合は、嘱託医の判断で、適宜PCR検査を実施している。しかし各ユニットでクラスターが発生してしまい、その都度、嘱託医に協力頂いた。また保健所の指示でスムースに入院する事が出来、重症化する方は少なかった。

(4) 食事

毎日の食事は入居者の意見を聞き、調理、片付け等を、入居者・職員と共にしている。買い物は新型コロナウィルス感染症の関係で職員が実施している。

外出ができない分、入居者の誕生日のお祝いには力を入れ、店屋物等も活用し、ユニット全体で楽しんだ。

利用者の身体の状態に合わせて、飲料にとろみをつける、ミキサーにかける、介護食を取り寄せるなど、食べやすく工夫をして提供している。

4. 会議・研修

(1) 研修

新型コロナウィルス感染症の関係で、法人主催の職員研修、品川福祉カレッジ、みの参加となった。人権研修や認知症については、リモート研修を利用して参加している。施設内研修としては、月1回の虐待予防委員会やサービス向上委員会の活動の中で、動画コンテンツを活用した研修を行った。

(2) 会議・委員会活動

毎月1回の職員会議のほか、サービス向上委員会として認知症ケアについて取り組んだ。身体拘束適正化委員会、虐待防止委員会も定期的に実施した。新型コロナウィルスの感染者が多い時には、文章を回覧する事で情報の共有を行った。また、定例の運営推進会議を奇数月に計6回開催しているが、新型コロナウィルス感染症の関係で、作成資料を関係者に郵送することで開催とし、グループホームの生活状況を知らせている。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウィルス感染症の関係で、事業説明会は中止し、資料郵送にて事業経過報告などを行った。また、面会については、窓越しでの面会に協力していただいている。

(2) ボランティア

新型コロナウィルス感染症の関係で、受け入れを中止した。

(3) 実習生

実人員2人（昨年度2人）、延べ日数 10日（昨年度10日）の実習生（介護福祉士）を受け入れた。新型コロナウィルス感染症の関係で、事前にPCR検査を受け、実習期間中は自身の行動記録をとりながら実習を行ってもらっている。

(4) 地域社会との交流の推進

新型コロナウィルス感染症の関係で、団地内の行事も中止となり、散歩以外の外出は控えてもらった。

6. 防災

新型コロナウィルス感染症の関係で、防災センター（ビル管理会社に委託）と連携し特養やユニットをまたがないような形で、毎月1回の防災訓練を実施した。

7. 施設管理・環境整備・備品購入等（開設12年経過）

修繕・改修関係	トイレ内の電球のLED化
備品購入関係	洗濯機買い替え

令和4年度 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

- (1) 一人ひとりに合わせたサービス提供を行うため、ご家族や関係機関との連携に力を入れた。必要とされるケアの内容は様々であるが、出来る限り個別性を重視し対応した。関係機関との連携や職員のアセスメント力向上により、ケアに必要な利用者の情報を得ることができ、その情報を職員で共有することにより、事故の発生を防ぐ事へも繋がっている。
- (2) 研修については感染症の影響もあり、外部研修はオンライン形式での参加となった。年間を通じ複合施設内で交換研修を実施した。併設の特養ホームで研修を行うことにより、重度者の身体介護を実践で学ぶことができ、介護技術の向上へと繋がっている。
- (3) 見守りに重点を置いたケアを実践した。自宅で必要な動作を自ら行なうことをリハビリと捉え、自分で出来る喜びを在宅生活へ繋げることが出来た。

2. 利用者状況

(1) 介護保険サービス

・年間利用者総数および稼働率(一般・予防・認知症対応型) R5.3.31 現在

	令和4年度			令和3年度			令和2年度		
	一般	総合	認知症	一般	総合	認知症	一般	総合	認知症
合 計	5,752	2,268	2,156	5,577	1,893	2,200	5,279	2,048	1,803
実 施 日 数	308	308	308	308	308	308	308	308	308
1日当たり利用者数	18.7	7.4	7.0	18.1	6.1	7.1	17.1	6.6	5.9
稼 働 率	80.1%		58.3%	74.6%		59.5%	73.2%		48.8%

・登録者数内訳（要介護度別・人）

R5.3.31 現在

	一般デイサービス									認知症対応デイサービス								
	4年度			3年度			2年度			4年度			3年度			2年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象	0	1	1	0	1	1	1	3	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
要支援1	2	11	13	4	8	12	1	9	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	3	12	15	5	11	16	8	14	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	5	18	23	5	18	23	9	22	31	1	3	4	1	5	6	2	8	10
要介護2	2	12	14	2	9	11	7	13	20	0	1	1	0	2	2	0	2	2
要介護3	5	8	13	5	6	11	4	14	18	1	6	7	3	3	6	1	5	6
要介護4	2	4	6	1	6	7	3	6	9	1	5	6	0	2	2	0	3	3
要介護5	0	2	2	0	3	3	0	1	1	0	1	1	0	2	2	0	3	3
合 計	19	68	87	22	62	84	33	82	115	3	16	19	4	14	18	3	21	24

定員：一般デイ 35名、認知症対応型デイ 12名

・目標稼働率を一般デイは77%、認知症デイを60%に設定し、一般デイは3年振りに目標稼働率を達成した。認知症対応型デイサービスの稼働率は未達

成だが、利用者のうち、31.6%の方が他居宅からの紹介となっており、利用者に合わせたサービス提供のあり方の有意性が認知され始めている。

- ・事業対象者・要支援者の人数制限を設けていないが、実利用人数は変化なく要介護者の新規利用が増加している。

- ・利用終結の理由として、特別養護老人ホーム入所となる方が増加している。

(2) 介護保険外サービス（訪問給食/通所サービス）

訪問給食サービス、通所サービス（入浴・給食）共に該当者はいない。

3. 援助経過

年間プログラム

行事名	開催日	参加人数
菖蒲湯	5月2日（月）～5月6日（金）	122
くつろぎ祭り	10月8日（土）	25
外出行事	中止	
ゆず湯	12月19日（月）～12月23日（金）	116
Xmas会	12月19日（土）～12月24日（土）	211
餅つき	12月24日（土）	31
新年会	1月4日（水）～1月7日（土）	123
豆まき大会	2月3日（金）	34

- ・外出行事は今年度も中止している。利用者の楽しみを増やすため、行事以外にイベント的な活動を増やしている（調理活動、季節のイベント）。
- ・くつろぎ祭り、餅つきについては、施設行事として実施した。職員と共にゆっくり楽しむことができ、利用者には大好評であった。行事やイベントはフェイスブックを通し、ご家族等に発信している。

4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 連絡ノートを活用し家庭での様子・利用中の状況を互いに把握するよう努めた。活動状況については、写真を多用し利用者の状況が詳しく伝わる事を意識した。
- (2) ボランティアはサークル活動の補助のみ再開している。
- (3) 地域との合同防災訓練は中止したが、祭礼行事は感染予防策を講じ地域の方との交流を行った。
- (4) 地域開放事業としての「くつろぎ祭り」「もちつき」は中止している。

5. 「身近でトレーニング」利用者数実績

令和4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	3年	2年
実施回数	12	13	11	11	14	12	13	13	10	12	12	12	145	139	112
登録利用者数	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	48	576	577	327
延べ利用回数	165	175	140	128	177	157	183	169	119	148	142	151	1,854	1,885	1,116

令和4年度 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

- (1) 理学療法士常勤採用したが、体調不良により急な退職となり、当初予定していたリハビリトレーニングについて規模が縮小する結果になってしまった。
- (2) 新規利用や増回に迅速に対応し、また短時間利用など変則的な利用希望等にもできるだけ添うようにし、ケアマネージャーとの連携にも努めた。
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大したが、施設内のクラスターは発生せず、感染防止を徹底した。一方で新型コロナウイルス感染以外の長期欠席者や利用回数の多い方の入院・施設入所・ご逝去等が稼働率に影響を及ぼし、昨年度に比べ上昇はしたもの、目標稼働率に達せなかつた。
- (4) 介護予防事業である「マシンでトレーニング」については、近年申込者の増加は続いている、好評で抽選となっている。
- (5) 併設する八潮わたくさ荘入居者の急性期の対応を在支ケアマネと連携し、デイサービスにて対応を迅速におこなった。

2. 利用者状況

(1) 介護保険サービス

・年間利用者数及び稼働率（一般、総合事業・予防、対象外）

	令和4年度			令和3年度			令和2年度		
	一般	総合	対象外	一般	総合	対象外	一般	総合	対象外
男性	1,840	388	0	1,339	378	0	1,196	424	0
女性	2,496	1,433	0	2,361	1,486	0	2,606	1,370	0
合計	4,336	1,821	0	3,700	1,864	0	3,802	1,794	0
実施日数	308	308	0	305	305	0	305	305	0
1日の人数	14.1	5.91	0	12.1	6.1	0	12.7	5.9	0
稼働率	61.8			55.5			56.8		

・登録者数内訳(要介護度別 R5.3月現在)

	一般デイサービス								
	令和4年度			令和3年度			令和2年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象者	2	3	5	2	4	6	2	5	7
要支援1	0	2	2	2	3	5	1	6	7
要支援2	3	12	15	0	16	16	2	12	14
要介護1	6	15	21	2	7	9	3	8	11
要介護2	2	4	6	2	2	4	1	6	7
要介護3	10	3	13	9	2	11	8	6	16
要介護4	2	0	2	0	2	2	0	2	2
要介護5	1	0	1	2	3	5	1	4	5

合 計	26	39	65	19	39	58	18	49	69
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

(2) 介護保険外サービス（訪問給食／通所給食）

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
食数	525	538	813
実施日数	256	257	307
1日あたりの利用者数	2.1	2.1	2.7

3. 援助経過

- (1) 昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大により例年実施していた外出行事については全て中止となった。
- (2) 季節を感じていただくことを目的に5月のしょうぶ湯、12月のゆず湯は例年通り実施。また変わり湯として、8月にはラベンダー湯を行い利用者の方々には大変好評であった。

4. 家族、社会との関わり

- (1) 家族へは連絡ノートや電話による状況報告を実施している。また、支援センターにも適宜、連絡・報告をして連携を図っている。
- (2) ボランティアは、新型コロナウイルス感染拡大のため受け入れをが中止となった。
- (3) 地域開放事業として、「カフェぽっかぽか」を7月・2月。「クリスマスコンサート」12月にを実施予定であったが、全て新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

5. 介護予防事業

- (1) 「マシンでトレーニング」の利用者は、コロナウイルス感染防止により12名定員のところ8名で実施。理学療法士の年度途中による急な退職には区と相談の上、前期2回中止となった。年間では延べ273人の利用となっている。

6. 防災

- (1) 毎月防災訓練を実施した。年2回「サンかもめ」と、例年3月実施の「八潮わかくさ荘」も含めた総合訓練は新型コロナウイルスの感染予防のため実施できず。

7. 設備関係

- (1) 冷暖房ファンコイルユニット交換。

令和4年度 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

- (1) 一般通所介護では、地域のニーズや状況に合わせ、レスパイトや見守りが中心ではなく、転倒予防という目的に特化したプログラム「転倒予防エクササイズ」を日中活動の中心として継続実施し、サービスの質向上及び新規利用者獲得による稼働率は昨年度比で7.1%向上した。
- (2) 土曜日の定員を10名増やし35名にした設定は好評で、土曜日に関しては年間通して75%以上の稼働率を維持した。
- (3) 介護予防体操・転倒予防体操を中心に本人や家族のニーズに対し、きめ細やかな対応に努めた。
- (4) 理学療法士を毎日配置し、個別のリハビリプログラムを始めることが出来た。
- (5) 認知症対応型通所介護では、引き続き身体機能能力の高い方を対象とし、残存機能の活用のため趣味活動の充実と、利用者の願いを活かした活動を目指した。また、身体能力の維持のため散歩等を実施し、筋力維持に努めた。しかし、認知症対応型通所介護への地域のニーズが低く、稼働率に関しては昨年度比で8.5%減少しており、認知症予防に力を入れた事業の検討を開始している。

2. 利用者状況

(1) 介護保険サービス

・年間利用者総数および稼働率(一般・予防・認知症対応型)

R5.3.31 現在

	令和4年度			令和3年度			令和2年度		
	一般	総合事業	認知症	一般	総合事業	認知症	一般	予防	認知症
総 計	5,825	2113	994	5,257	1,407	1,334	5,119	2,117	1,673
実 施 日 数	308	308	308	308	308	308	308	308	308
1日当たりの利用者数	18.9	6.8	3.2	17.0	4.5	3.4	16.7	6.9	5.4
稼働率(%)	73.7%		27.5%	66.5%		36.1%	63.1%		48.1%

・登録者数内訳 (要介護度別)

R5.3.31 現在

	一般デイサービス						認知症対応型デイサービス											
	令和4年度			令和3年度			令和2年度			令和4年度			令和3年度			令和2年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象者	1	5	6	1	6	7	2	4	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
要支援1	2	4	6	0	3	3	0	3	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0
要支援2	7	12	19	9	7	16	5	8	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	12	26	38	12	21	33	11	18	29	1	4	5	1	1	2	1	5	6
要介護2	10	9	19	8	13	22	9	11	20	0	2	2	0	0	0	0	3	3
要介護3	2	8	10	2	10	12	5	13	18	1	6	7	0	3	3	2	3	5
要介護4	3	3	6	2	2	4	3	4	7	0	1	1	0	0	0	0	3	3
要介護5	0	1	1	1	1	2	0	1	1	0	2	2	0	1	1	1	1	3

事業対象者	1	6	7	1	6	7	2	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	
申請中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	8	14	0	0	0	
合計	38	74	112	36	69	105	43	74	117	2	16	18	7	13	20	5	18	23

- ・契約者人数は微増で、週複数回利用の方が増えている。稼働率が昨年比で一般デイが7.1%増、認知症デイが8.5%減少した。
- ・一般デイおよび総合事業は大幅増、認知対応型デイは大幅に減少している。
- ・集団体操プログラムである「転倒予防エクササイズ」を中心に実施し、稼働率が上がっている。

3. 援助経過

年間プログラム

行 事 名	開催日	参加人数
菖蒲湯	5月1日(月)～5月6日(土)	128名
ゆず湯	12月19日(月)～12月24日(土)	133名
節分	2月3日(金)	27名

4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 電話や連絡ノートを活用し介護士・看護師が家族等と密に連絡を取るように努めた。
- (2) 利用中の御家族への事業者説明会を書面にて開催した。
- (3) ボランティアは、新型コロナウイルス感染予防に留意しながら、受け入れを再開。
- (4) 認知症対応型通所介護の運営推進会議は、書面開催を2回実施している。

5. 介護予防事業

- ・参加者の低迷から、事業を休止している。

6. 防災

- (1) 毎月1回定期的に火災想定訓練又は地震想定訓練を行い、年に1回、高齢者住宅わかくさ荘との合同避難訓練を実施した。
- (2) 町会との防災協定を結んでいるため、合同でミニポンプ消火訓練を行った。

7. 設備関係

- ・建物や備品等の老朽化に対しては、トイレの配管等の給水設備の交換を行った。

令和4年度 品川区八潮在宅介護支援センター事業報告

品川区中延在宅介護支援センター事業報告

品川区大井在宅介護支援センター事業報告

品川区大井第二在宅介護支援センター事業報告

1. 総括

- (1) 地域包括支援センターの機能 ア) 総合的な相談窓口・権利擁護機能 イ) 介護予防マネジメント ウ) 包括的・継続的マネジメント 等について、品川区高齢者福祉課と連携し、一人ひとり丁寧に対応してきた。特に盛夏には高齢者の熱中症の予防策として、水分補給の重要性を伝えると共に必要に応じ経口補水液を配付しつつ、個別の状況把握に努めた。
- (2) 地域型の在宅介護支援センターとして、各地域に生じている福祉ニーズを把握し個別相談を進めるとともに、総合的な地域福祉力の向上を図るよう関係機関と連携した。特に医療機関や民生委員との関係向上を図り、認知症サポーター養成・見守りネットワークの構築などのほか、防災関係の情報提供や、緊急時の不安を解消できるよう地域づくりに力を入れた。
- (3) 居宅介護支援事業所として、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、利用者・家族に対して適切なアセスメントを実施した。そのことに基づき、一人ひとりに対して公正中立で利用者本位のケアマネジメントを実施した。
- (4) 認知症高齢者の対応や高齢者虐待の防止および成年後見制度の活用等について、適切な支援につながるよう高齢者福祉課や各関係機関とも連携を図った。また、入退院時のサービスに関する連絡調整・施設入所に関する相談や手続き代行など、在宅生活の継続や適切な施設利用につながるよう調整に努めた。
- (5) 「新型コロナワクチン接種支援業務」「災害時避難行動要支援者個別支援計画の作成業務」など、区からの依頼による臨時の業務を行った。

2. 地域づくり等

- ・八潮在宅介護支援センター：「防災」と「福祉」の連携による要支援者の支援体制作りとして、「潮路東ハイツ自治会」防災区民組織と共に有事の時の方針等、対応など話し合いを行った。発災時に地域がどのような情報を必要としているのかを知ることができた。次年度以降、防災イベントなど支援センター職員が参加することでより連携を密にしていくことを取り決めた。
- ・中延在宅介護支援センター：感染症予防対策のため、コミュニティーカフェの開催は見送りとした。地域の高齢者向けの情報発信としては、併設の在宅サービスセンターと連携し、身近な話題を中心に通信文や口頭で情報発信を行っている。地域の東中3町会と地域防災についての検討会を実施した。

- ・大井、大井第二在宅介護支援センター：業務継続計画（BCP）を作成したが、今後地域の実情に合わせて修正を行う。町会との防災対策の打ち合わせ及び防災モデル事業に参加し、町会・品川区・在宅介護支援センターと協働して、避難のあり方などを検討した。

3. 支援経過（支援実績）

支援内容

	令和4年度	延 件 数			
		八潮	中延	大井	大井第二
相談内容	利用者宅訪問	2, 471	2, 878	1,864	2,102
	計画書配布	761	1, 050	657	531
	利用票配布	1, 889	1, 919	1,068	1,454
	担当者会議	670	767	683	571
	担当者照会	123	293	717	109
	モニタリング	3, 767	4,778	2,557	3,072
	医療連携	43	25	8	6
	退院退所面談	1	4	1	1
	通院時連携	1	0	0	1
	連絡・調整	2, 748	5, 184	2,538	2, 598
	ターミナル訪問	0	0	7	0
	通院時情報連携	0	0	3	2
合 計		12, 476	16,898	10,103	10, 447

夜間、休日相談

	件数		
	夜間	休日	合計
八潮	18	0	18
中延	3	1	4
大井	1	1	2
大井第二	5	3	8

給付管理件数（令和4年度）

	件数		
	介護給付	予防給付	総合事業
八潮	2,051	980	814
中延	1,837	1,347	1,155
大井	994	742	601
大井第二	1,474	578	608

令和4年度 かもめ園(知的障害部門)事業報告

1. 総括

(1) 個別支援の充実

利用者の方は昨年に続き制限の中での生活となってしまったが、年度後半で新型コロナウイルス感染が落ち着くと、面会・外出・外泊の制限が緩和し、近隣のスーパーへの外出や週末の帰宅など、少しずつ利用者の生活の幅が広がった。

(2) 権利擁護

今年度よりサービス向上委員会を立ち上げ、事故防止・身体拘束廃止を含む虐待防止等話し合うことでよりよい支援につなげた。しかしながら利用者対応で不適切事案が発生し、虐待認定に至った。

(3) ICT機器を含む設備の充実

施設整備面では低床ベッドを購入し使用することで、身体拘束廃止につなげることができた。

(4) 感染症予防

今年度も大井中央病院の協力を得てワクチン接種を行ない、クラスターに発展することがなかった。短期入所は、入所時、抗原検査を実施した。体調不調の場合は利用を中止するなど、ご家族の理解を得ながら感染予防に努めた。

2. 利用者状況(令和5年3月31日現在)

(1) 入退所状況

(単位:人)

	性別および事由	合計
入所者	男性2名 女性1名 在宅より入所	3名
退所者	女性2名 ご逝去	2名

(2) 障害区分

(単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	0	8	14	4	26
女性	0	0	2	6	10	7	25
合計	0	0	2	14	24	11	51

(3) 年齢別

(単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	90	合計
男性	1	3	4	6	9	2	1	0	26
女性	1	2	4	7	6	3	1	1	25
合計	2	5	8	13	15	5	2	1	51

・平均年齢 男性 56.3歳 女性 57.1歳 全体 56.7歳 (令和3年度 57.4歳)

(4) 稼働率

令和年度		4年度	3年度	2年度
利 用 率 (%)	施設入所	95.8	95.2	95.1
	生活介護	93.7	83.2	88.5

(5) 関係機関

(単位:人)

品川	大田	江東	葛飾	足立	台東	八王子	合計
43	3	1	1	1	1	1	51

3. 支援経過

(1) 支援全般

コロナ禍の為、新型コロナウイルス感染予防、拡大防止を第一とした。その為制限の中での支援となった。制限の中で生活の質を落とさないように努めた。活動が利用者の好きなデリバリーやお菓子購入、喫茶などになってしまふ為、散歩や理学療法士を招きリハビリを行うことで運動量の確保に努めた。コロナ禍でも感染対応を十分行い、さつき等の通所は継続して行った。複数の職員が複数の利用者の担当をするグループ担当制をとったことで職員の中途退職が出ても継続的な支援を行うことができた。

高齢化や身体状況の変化が顕著にみられ、入院等、医療的な対応が多くなった。今後、多職種、家族とコミュニケーションをとり、連携をとることで迅速に医療機関などへ結び付けることが必要になっている。

(2) 生活介護日中活動

①課題別活動（小グループ）

今年度は創作活動（ものづくり）、運動、音楽、園芸及びリサイクルに班分けし活動した。リサイクルは感染予防の為活動できず、園庭の掃除を主に実施した。園芸はサツマイモ等を植え、収穫した。創作活動（ものづくり）は、利用者が作りたいものを考え作品にした。作品展にも出展した。

②課題別活動（個人）

年度前半はコロナ禍で外出制限があり、外出が散歩や売店での買い物のみ可という時期があった。その中でも利用者の希望を伺い、職員と個別で関わる時間は利用者にとって楽しみとなっている。年度後半は制限が緩和され外出、地域活動ができるようになった。長距離の散歩や近隣でのスーパーでの買い物等実施した。

③全体活動

5月：新人歓迎会 8月：納涼会 3月：送別会を実施。コロナ禍ということで密を避け、飲食の行事は行っていない。その状況の中、室内で塗り絵など創作活動したり、好きな音楽やDVDを見たり工夫して対応した。

④他のサービスを利用

サンかもめ、第一しいのき学園（生活介護）、さつき（就労継続支援B型サービス）へ日中通所した。通所先の急な熱発などは通所先の事業所と連絡を取り合い対応した。通所先の各種行事等にも、本人の意向により参加した。

利用人数

（単位：人）

	さつき	第一しいのき学園	サンかもめ	合計
男性	1	0	0	1
女性	5	1	3	9

(3) 施設入所支援

コロナ禍の為行事やレクリエーションを中止にした分、個別に散歩や近隣のスーパーなどへの外出の回数を多くし生活の質を守った。強度行動障害の利用者の方や高齢の方の支援等対応が難しいケースは会議や委員会等の時間に話し合い、支援方法を検討・変更し実施している。

(4) サークル活動 (単位:人)

サークル名	実施回数(年間)	参加人数(延)
コーラス	0回	0
生花	1回	10
茶道	0回	0

(5) 行事 (単位:人)

行事名	実施日	内容	参加人数
菖蒲湯	5/5	菖蒲湯につかる	51
新任歓迎会	5/8	新年度顔合わせ	51
納涼会	8/27	焼きそば、かき氷、他	51
バイキング食	年4回	希望献立に因る会食	46
バーベキュー	10~12月	園庭で小グループ開催	42
クリスマス食事会	12/18	イベントに合わせた食事	52
柚子湯	12/22	柚子湯につかる	52
送別会	3/20	年度末納会	49

新型コロナウイルス感染症予防に伴い多くの行事が実施出来なかった。

(6) 健康管理

定期健康診断、インフルエンザ予防接種等を実施。利用者の高齢化が進んでおり健康の維持と疾病の早期発見に努めた。新型コロナウイルス対策として4、5回目のワクチン接種を実施。感染予防対策として年度前半は面会、外出等制限したが、後半に新型コロナウイルスの感染が落ち着いてくると緩和し15分の面会、近隣の外出、抗原検査を行っての外泊を実施した。感染拡大は見られなかった。ノロウイルス等その他の感染症にかかる方はいなかった。

通院・入院・嘱託医受診。

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	10	6	5	9	8	10	11	8	10	11	10	9	107
入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
受診	14	14	20	23	26	27	21	39	9	13	13	10	229

(7) 給食

給食会議にて献立の内容、課題利用者の食事形態等を検討し、事業者と調整を行なった。毎週水曜日に選択食を実施した他、バイキング食（今年度は年4回）は、6月「韓国料理」8月「ビアガーデン料理」1月「カレー」3月「ホテルビュッフェ」のテーマで実施した。コロナ禍の為、バイキング形式でなく弁当で食事を出したが、利用者の方には好評だった。

特別食支給状況（疾病・年齢・身体機能に対応した特別食） (単位:人)

減塩食		制限食 1,300Kcal		制限食 1,400 Kcal		制限食 1,600 Kcal	
0		0		4		5	
常食	粗キザミ食	角食	キザミ食	なめらか食	ペースト食	個別対応食	
24	8	7	9	0	3	1	

(8) サービス点検調整委員会

新型コロナウイルス感染予防の為、年度前半は実施できなかつたが、後半11月2月と実施している。

(9) サービス評価

東京都福祉サービス第三者評価の利用者ヒヤリングを受審し、サービス向上

に取り組んだ。

(10) 苦情解決第三者委員会

10・2月と開催し、経過報告を行った。

(11) サービス向上委員会

今年度より職員を「支援の統一」「事故防止」「重度高齢化に伴う介助方法」

「OJT」「虐待防止委員会」のグループに分け、活動を行った。

(12) 虐待防止委員会

毎月、虐待防止委員会を開催。人権を重視し適切な支援を目指した。また、
身体拘束（ベッド柵やミトン）が必要か検討し、低床ベッド購入、介助方法
の変更を実施することで拘束を減らすことが出来た。

4. 研修・会議

(1) 研修

法人研修計画に基づき、人権研修その他研修に参加した。オンライン研
修を実施し職員全員で視聴した。外部講師を招いて虐待予防研修を開催した。

(2) 会議

合同職員会議、ケース会議、生活会議、給食会議、役職会議を開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウイルス感染予防の為、感染状況に応じて1回15分間の面会を実
施した。また、1か月毎にかもめ通信を送付し、園の様子を家族に伝えた。

(2) 地域交流

新型コロナウイルス感染予防の為、実施出来なかった。

(3) ボランティアの協力

新型コロナウイルス感染予防の為、受け入れを中止にした。

6. 短期入所事業（定員3名）

東京都福祉サービス第三者評価を受審し、サービスの向上に努めた。

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	8	8	12	7	7	9	10	13	10	9	11	11	115
女性	5	4	5	5	4	7	5	5	5	4	4	4	57
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13	12	17	12	11	16	15	18	15	13	15	15	172
利用日数	82	72	78	49	69	89	97	89	83	45	80	81	914
年間平均稼働率	令和4年度 83.5%						年間平均稼働率	令和3年度 96.1%					

7. 防災

法人の防災計画に従い防災訓練、事業継続計画（BCP）訓練を実施した。し
かし新型コロナウイルス感染が拡大し中止になる月があった。

品川区防災課より、福祉避難所の備蓄物資を預かり保管している。

8. 環境整備・備品購入

環境整備・備品購入	低床リクライニング式ベッド
修繕関係	1階出入り口の扉・2階収納棚

令和4年度 かもめ園（身体障害部門）事業報告

1. 総括

(1) 専門性のある関わり方

東京都福祉サービス第三者評価を受審し、サービス向上に努めた。また、支援センターの緊急ショートステイ利用の依頼に対し、柔軟的な受け入れを行った。

(2) 権利擁護

生産的な雇用と働きがいのある雇用を推進するため、生活介護では、利用者が作成した作品を、カレンダーとして販売に繋げた。生産活動では、バザーの開催が中止となり、販売の機会が減少したため、館内で販売の機会を開催した。利用者と職員との関係で金銭面のトラブルが確認され、虐待認定に至った。金銭の取り扱いについて、職員と利用者に取り扱い規則を徹底させた。

(3) 感染症予防の徹底

新型コロナウイルス感染症について、7月にショートステイ利用者から感染したと考えられるクラスターが発生した。以降、ショートステイ利用の受け入れ時に抗原検査の実施をすることを協力依頼し、感染予防に努めた。

また、都内の感染状況を見極めながら、職員の抗原検査の回数の増やすと共にPCR検査を毎週行う事を徹底した。外出・外泊・面会は、引き続き制限を設け利用者と家族にも協力要請した。新型コロナワクチン接種は、大井中央病院の協力を得て、5回目が終了した。

2. 利用者状況（令和5年3月31日現在）

(1) 入退所状況

(単位人)

	性別及び事由		合計
入所者	女性 1名	病院より入所	1名
退所者	男性 2名	ご逝去・女性 1名	療養型病院 3名

(2) 障害区分

(単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	2	4	7	10	23
女性	0	0	3	6	8	6	23
合計	0	0	5	10	15	16	46

(3) 年齢別

(単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	合計
男性	1	1	4	6	7	2	2	23
女性	0	2	2	10	6	1	2	23
合計	1	3	6	16	13	3	4	46

・平均年齢 男性 57.9歳 女性 57.9歳 全体 57.9歳 (令和3年度 58.3歳)

(4) 積働率

令和年度		4年度	3年度	2年度
利用率 (%)	施設入所	95.3	95.2	95.1
	生活介護	83.2	83.2	88.5

(5) 関係機関

(単位:人)

品川	中野	足立	江戸川	江東	町田	合計
41	1	1	1	1	1	46

3. 支援経過

(1) 支援全般

利用者一人ひとりの個別ニーズを汲み取るため個別面談を年2回実施し、個別支援計画に反映させた。個別支援計画の実行は、個別支援の時間を活用し、利用者本人のニーズに応えられるようにした。

(2) 生活介護日中活動

①生産活動

能力、適性に応じて2つのグループに編成し、工賃を支給した。軽作業の受注は変動あるも継続してあり、創作作業は縫製やビーズ関連の作業等の作成を手掛けた。

参加人数

(単位:人)

	軽作業	創作	合計
男性	8	1	9
女性	6	7	13
合計	14	8	22

②療護活動

講師の指導によるヨガビリーや音楽セラピーを実施することが出来なかつたが、職員主導によるリハビリや園芸で育てた野菜等の収穫と創作活動を積極的に行つた。リハビリ専門職とコンタクトを取り、継続的な個別リハビリを可能とした。

③他サービスの利用

同一法人内の他施設が実施するサービスを利用した。

参加人数

(単位:人)

	男性	女性	合計
就労継続支援 B型さつき	2	2	4
サンかもめ	0	1	1

(3) 施設入所支援

感染予防から年度当初に計画していた行事や余暇支援の実施が行えない事もあつたが、新しい生活様式を取り入れ、潤いのある生活を目指し支援した。外出支援等を可能としたが、感染リスクから控えめとなつた。利用者のニーズに応えるべく館内活動を多く実施した。

(4) サークル活動

(単位:人)

	実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)
書道	0	0	勉強会	7	115	カラオケ	17	277
料理	0	0	言語	4	86	お出かけ便	0	0
園芸	8	27	パソコン	0	0	デリバリー	26	26

(5) 行事

行事名	実施日	内容	利用者参加人数
お花見	4/2・3	館内から花見を楽しむ	33名
しょうぶ湯	5/4	健康と長寿を願い入浴した	全員
七夕	7/7	七夕飾り他	全員
お楽しみ企画	3/25	施設にいながら様々なイベントを楽しむ	全員
納涼会	9/8	夏の雰囲気と夏らしい映画を楽しむ	38名
バイキング食事会	6/9・10/9 11/20・2/19	テーマに沿った会食を楽しむ	164名
映画観賞会	同上	要望の映画を鑑賞する	60名
そば打ち	11/17	新そばの時期に手打ち蕎麦作りを体験する	28名
オンラインツアーワーク	7・8・9月	旅行気分を味わう	20名
クリスマス懇親会	12/12	会食を楽しむ	42名
柚子湯	12/21	風邪を引かずに冬を越せるよう願い入浴した	全員
新年会	1/4	新年顔合わせを行い新年の抱負を語り合う	全員
初詣	1/1～3	館内にかもめ神社を設置し参拝する	20名
節分	2/2	豆まきを実施し、健康を祈る	34名

新型コロナウイルス感染症に伴い、外出等を伴う多くの行事が出来なかつたため、施設内で工夫を行い新たな企画を実施した。天候に恵まれず、花火鑑賞が実施出来なかつた。

(6) 健康管理

嘱託医による受診、歯科往診等を定期的に行った。定期健康診断を実施し、インフルエンザ予防接種は42名実施した。インフルエンザや胃腸炎症状の罹患者は0名であった。新型コロナワクチン接種は、5回目までほぼ全員の利用者が終了した。重度高齢化に伴い医療機関と連携し、病院へ移行した方がいた。

通院・入院・嘱託医受診状況（単位人）

日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	6	4	2	4	5	3	2	8	12	1	6	5	58
入院	2	1	2	2	1	1	1	1	2	0	0	0	13
受診	46	46	45	45	45	45	46	46	45	45	45	45	544

(7) 給食

月一回給食会議を実施し、行事食の一つとして年3回のワンプレート式バイキング食事会を企画した。

特別食支給状況(疾病・年齢・身体機能に対応した特別食) (単位:人)

減塩食		制限食 1300Kcal		制限食 1400 Kcal		制限食 1600 Kcal	
7		1		4		3	
常食	粗キザミ食	角食	キザミ食	なめらか食	ペースト食	個別対応食	
15	7	9	12	0	2	3	

(8) サービス点検調整委員会

新型コロナウイルス感染予防の為、利用者ヒヤリングは実施出来なかった。

(9) サービス評価

東京都福祉サービス第三者評価の利用者調査を受審し、サービス向上に取り組んだ。

(10) 苦情解決第三者委員会

10月・2月に開催し、施設の状況報告を行った。

(11) サービス向上委員会

「サービス・支援の統一化」「リスク管理 感染症対策と事故予防」「医療的ケアと楽しい食事」「虐待防止」をテーマにサービス向上と課題解決に取り組んだ。

(12) 虐待防止委員会

毎月一回職員会議の前半に実施。利用者支援状況の確認を行ない、職員個々の
人権意識を高めてきた。

4. 研修・会議

(1) 外部研修では、東京都・全国社会福祉協議会・品川区社会福祉協議会等の主催
の研修は、リモートにて参加した。外部講師を招いて虐待予防研修を開催した。

(2) 職員会議、合同職員会議、ケース会議、役員会議、給食会議、生活会議、生産
活動会議を開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

事業説明会は感染予防の観点から開催することが出来なかつた。各家族へ施設
から情報発信を積極的に行つた。面会は、時間制限付き直接面会を実施し、自
宅への外泊は1泊のみの可能とした。

(2) 地域交流

区内の多くの各イベントが中止になるも、ふくしまつりのリモート参加を行つた。
生産活動の作品販売を1階ロビーで実施をした。クリスマスイベントに職
員が参加した。

(3) ボランティアの協力

新型コロナウイルス感染予防の為、間接的な活動の受け入れを行つた。

6. 短期入所事業(定員2名)

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	6	9	8	6	5	9	7	9	8	6	5	6	84
女性	4	6	6	4	4	3	3	4	3	4	5	5	51
児童	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
計	10	15	15	10	9	11	10	13	11	10	11	12	137
利用日数	42	66	61	15	44	65	59	63	54	49	62	66	646
年間平均稼働率	令和4年度 88.5%					年間平均稼働率 3年度 95.1%							

7. 防災

法人本部の防災計画に従い、防災訓練、事業継続計画（BCP）訓練を行つた。

8. 環境整備・備品購入

環境整備・備品購入	低床リクライニング式ベッド
-----------	---------------

令和4年度 サンかもめ事業報告

1. 総括

- (1) 抱点相談支援事業所、他関係機関と連携、様々な機会をとらえ、利用者増を進めてきたが、当年度は新規の利用には繋がらなかった。
- (2) 利用者の健康管理（感染予防等）を進め、障害程度の重度化、高齢化などに対応する支援体制の取組み強化に努めた。
感染症予防については、7月に新型コロナウイルス感染が利用者、職員間に広がったため7/19～7/22の間サービスを休止した。最終的に当年度も多人数が集結する保護者会等は中止とし、家族へは写真を多用した「施設だより」等の文書連絡により事業の情報提供を進めてきた。
- (3) 利用者ニーズに対応したプログラムの変革を検討、地域清掃、カフェタイムの設定など、余暇支援や社会体験促進の内容を進めてきた。
- (4) 身体拘束廃止への体制整備と虐待防止の取組み強化に向けた職員の支援技術、知識、専門性の向上のための研修への参加、情報共有等を進めた。

2. 利用者状況(令和5年3月31日現在)

(1) 入退所状況

	性別及び事由	合計
入所者		0名
退所者	女性2名、男性1名 3名とも他施設に入所	3名

(2) 障害区分 (単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	1	8	5	3	17
女性	0	1	0	4	5	4	14
合計	0	1	1	12	10	7	31

(3) 年齢構成 (単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	合計
男性	3	9	2	0	1	1	1	17
女性	2	8	2	1	1	0	0	14
合計	5	17	4	1	2	1	1	31

(4) 稼働率 (年間平均)

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
稼働率 (%)	83.1	80.3	69.8

※定員30人

3. 支援経過

個別支援計画に沿い音楽・リハビリテーション・手芸・紙漉き・散歩などの日中活動や外出活動を通して利用者個々の自己実現に向けた支援を心がけた。また、リサイクル活動、作品展出品等利用者と地域をつなぐ活動に力を入れた。

(1) リサイクル活動による収益（円）＊令和5年3月31日現在

作業	資源回収	リサイクル報奨金	合計
収入	980	25,380	26,360

(2) レクリエーション・行事

	内容	回数
外出活動	感染防止のため中止	0回
地域参加行事	地域行事は感染防止のため中止	0回
レクリエーション	ダンス、歌（中止）、調理、創作、スポーツ大会、季節行事（夏祭り他） クリスマス忘年会 納会	24回

(3) 健康管理

嘱託医による応診を毎月1回、健康診断を年1回実施、インフルエンザ予防接種、新型コロナワイルスワクチン接種を実施した。

(4) 給食

サンかもデイ（誕生日リクエスト食：33回）、選択メニュー（12回）、を実施した。また、必要に応じて、食形態の変更や高カロリー食、制限食、代替食、減塩食等の対応をした。

(5) 送迎サービス

29名が送迎サービスを利用した。（内6名が車椅子用リフトを使用）。

(6) 延長支援事業

利用者実数	年間実施日数	年間利用延べ時間	年間送迎利用数
7名	192日	832時間	398回

4. 会議・研修

支援・職員会議毎月2回、モニタリング会議（半年毎）、給食会議毎月1回を開催し、外部研修（福祉カレッジ等）、虐待防止研修、法人階層別研修、法人人権擁護研修等に参加した。（研修はリモート実施が中心）

5. 家族・地域支援（ボランティア・実習生受け入れ）

- (1) 保護者会、保護者参加行事（クリスマス忘年会）は未実施。
- (2) 福祉関係実習生2名、定期ボラ（歌、音楽指導等）は休止。

6. 防災

施設防災訓練（避難誘導等）12回（内地震想定1回）

7. 施設管理・環境整備他

玄関ホール壁補修、ベランダ清掃等実施

令和4年度 品川区立心身障害者福祉会館生活介護事業報告

1. 総括

- (1) 利用者の希望・意向を尊重し、個別支援計画に沿った支援を強化し、プログラムに個別支援日を設定することで、利用者個々の個性や特性に応じた支援の充実を図り作品作りに力を入れた。個人や共同制作の作品等を作品展に出展した。
- (2) 利用者の障害程度の重度化、高齢化や医療的ケアが必要な利用者の受入れを開始したことから、その対応として、内科検診を月4回と、協力医療機関を総合病院とし、医療体制の強化を継続した。
- (3) 職員配置を増員し、余暇支援の充実を図り、新型コロナウイルス対策を行なながら、季節の行事や事業説明会、健康診断を実施した。
- (4) 摂食指導医や作業療法士・理学療法士との連携強化を継続したことにより、職員の摂食支援や作業療法・理学療法への理解が更に深まり、日々の支援への意識の向上が見られた。
- (5) 利用者支援の質の向上のため、強度行動障害者支援の研修や痰吸引の研修に参加し、職員個々のスキルアップを図り、事業全体のレベルアップに努めた。

2. 利用者状況(令和5年3月31日現在)

(1) 入退所状況

(単位:人)

性別および事由		合計
入所者	男性1名 城南特別支援学校より入所 女性2名 在宅より入所	2名
退所者	女性1名・男性2名 施設入所 男性1名 転居 男性1名 ご逝去	5名

(2) 障害区分

(単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	3	4	10	14	31
女性	0	0	6	4	2	5	17
合計	0	0	9	8	12	19	48

(3) 年齢別

(単位:人)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	1	8	9	8	4	1	0	0	31
女性	0	4	6	4	1	1	1	0	17
合計	1	12	15	12	5	2	1	0	48

・平均年齢 男性36.6歳 女性39.5歳 全体37.7歳 (令和3年度35.9歳)

(4) 稼働率

令和年度	4年度	3年度	2年度
利用率 (%)	73.0	74.3	70.2

3. 支援経過

- ①体温や血圧等、利用者の健康状態の把握を進め、個別によりきめ細かく配慮した。
また新型コロナウイルスへの感染防止対応を徹底した。

- ②リハビリ計画書に基づき、理学療法士・作業療法士による訓練を実施した。
- ③個別プログラムとして散歩、創作活動等をその日の希望により個別に実施した。
- ④全体プログラムとして音楽活動、カラオケ、ビデオ鑑賞等を実施してきた。また、生産活動としてメモ帳作りを実施した。また新たな活動としてバスボム（入浴剤）作りも開始した。さらに園芸ボランティアと協働し、サツマイモ作りを行った。
- ⑤感覚刺激を利用したプログラム（手浴・足浴、音楽療法、リラクゼーション、読み聞かせ、スヌーズレン等）に重点をおき、実施した。

4. 理学療法(PT)

リハビリ計画書に基づいた理学療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に、生活支援員が理学療法士の指導の下、日常のマッサージ等を実施した。
また、個人のリハビリ計画を作成し、定期的に見直し、評価を行なった。

- ・訓練実施回数 年 43 回（新型コロナウイルス感染拡大防止のため 5 回中止）

5. 作業療法 (OT)

リハビリ計画書に基づいた作業療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、手指の巧緻性や上肢の運動機能、認知機能等の向上に向けた訓練を実施した。
また、個人のリハビリ計画を作成し、定期的に見直し、評価を行なった。

- ・訓練実施回数 年 35 回（新型コロナウイルス感染拡大防止のため 1 回中止）

6. 音楽療法

講師を招いてミュージックセラピーを実施、音楽に合わせた身体運動により精神的緊張の軽減と情緒の安定、音楽を楽しむ時間を作り、支援の充実を図った。

- ・実施回数 年 24 回

7. 摂食指導及び給食サービス

必要な利用者へ、家族、摂食指導医、栄養士、給食業務委託業者、看護師、生活支援員が連携を図り、利用者個々に適した食形態の食事提供及び食事介助方法の検討を行い、サービスの質の向上を図った。

- ・実施回数 年 12 回

8. 送迎サービス（令和 5 年 3 月 31 日現在）

必要な利用者へ、車両による送迎サービスを実施した。

- ・利用人数 契約者数 48 名中の 36 名が利用（全員がほぼ往復利用）

9. 虐待防止やサービス向上への取り組み

毎月 1 回、虐待防止委員会やサービス向上委員会を実施した。身体拘束廃止について、研修や委員会の実施、車椅子ベルトの解除等の取り組みを行った。また虐待の目チェックシートで挙がった内容について、振り返りを行い、課題解決につなげた。「品川区施設サービス向上委員会作成のセルフチェック」を実施した。その中で、職員の支援やサービスの質の向上を図った。

令和4年度 品川区立心身障害者福祉会館自立訓練事業報告

1. 総括

- (1) 見学・面接等で1人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からリハビリ計画書の充実を図ると共に、その計画に沿ったプログラムを作り、実効的な内容を提供した。
- (2) 近隣区(大田区、目黒区、港区)や在宅介護支援センターに対象者の紹介を依頼し、さらに、送迎サービスと訪問型訓練のサービスを継続し利用者増を図った。また、理学療法士、作業療法士の出勤日を利用者の希望に合わせること等で、利用者支援の充実につなげた。さらに体験利用の時期から必要な方には、サービスで通所訓練を提供する事で、本契約につながるケースを増やしていく事で稼働率向上に努めた。
- (3) 機能訓練の目的・機能を明確化し、事業を実施した。実施に際して、医療、障害者相談支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換、情報共有を図り、支援の連携体制の強化に努めた。
- (4) 令和4年度から定員を12名に変更し、事業運営を開始した。また、利用日が祝日の時は、振替え利用を促し、利用につなげた。
- (5) 特別支援学校卒業後の利用推進に向け学校に働きかけ、実習生の受入れが進むよう準備を進めたが、利用には結びつかなかった。

2. 利用者状況(令和5年3月31日現在)

(1) 入退所状況

(単位:人)

	性別および事由	合計
入所者	女性2名・男性6名 復職、再就職	8名
退所者	男性2名 復職 男性1名 就労支援事業所へ移行 男性2名 転居・在宅生活	5名

(2) 障害区分

(単位:人)

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	15	0	0	0	0	0	0	15
女性	3	0	0	0	0	0	0	3
合計	18	0	0	0	0	0	0	18

(3) 年齢別

(単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	90	合計
男性	0	2	5	4	4	0	0	0	15
女性	1	0	1	1	0	0	0	0	3
合計	1	2	6	5	4	0	0	0	18

・平均年齢 男性 51.0歳 女性 44.0歳 全体 49.8歳 (令和3年度 46.2歳)

(4) 稼働率

令和年度	4年度	3年度	2年度
利用率 (%)	49.3	50.2	33.9

※令和2、3年度は定員6名・令和4年度は定員12名

3. 支援経過

- ①体力維持や向上に向け、理学療法士の指導による自主トレーニングプログラム（エルゴメーター・筋力トレーニング等）を作成、訓練を自己管理できるよう指導・助言を行った。
- ②就労を目標としたパソコン課題・机上課題・軽作業（仕分け・ピッキング他）・履歴書の作成支援・面談練習・復職時に行う業務の練習等に取り組む事で適性の自覚を導き改善方法を見出すことで就労意欲を喚起し、また職業訓練センター等との連携を強化し、就労移行をサポートした。
- ③外出訓練では、障害特性や歩行状態、公共交通機関の利用状態等を同行しながら観察し、利用者本人や介助者（家族等）に改善策を提案した。また、余暇活動でも外出訓練を取り入れ、社会生活支援につなげた。
- ④送迎サービスと訪問型訓練を継続し、サービスの充実を図った。

4. 理学療法

リハビリ計画書に基づいた理学療法士による機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に自主訓練メニューを作成した。

5. 作業療法

個別支援計画書に基づいた作業療法士による訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、利用者の様子を見ながら、個別性の高いプログラムを組み立て、実践の中で、達成度や改善点の共有を行なった。

令和4年度品川区旗の台障害児者相談支援センター事業報告

1. 総括

- (1) 令和4年度も新型コロナウイルスの感染状況や利用者の意向に合わせながら訪問や電話、オンライン等の方法で相談業務を進めてきた。
- (2) 法人内の障害者相談支援事業所4か所の合同の会議を月に1回開催し、現任研修を通して相談業務の知識を深め、相互協力体制を高め、また相談員同士の意見交換の機会とした。
- (3) 当年度は「生活のしづらさ調査」「個別避難計画作成」「地域移行調査」等の品川区の委託業務が多くあり、その都度、所管課との連携を密に、的確に業務を遂行してきた。
- (4) 相談支援専門員の養成は法人全体の継続課題としていく。

2. 実施事業

- (1) 障害者対象の総合相談、障害児者福祉サービスの利用援助について
 - ①各種の福祉情報を提供した。
 - ②各種福祉サービスを利用する際の援助を行った。
 - ③障害児支援利用計画書等の作成、サービス調整、モニタリングを行った。
 - ④サービス調整会議に参加した。
 - ⑤障害者の緊急時に対応した。
 - ⑥区内障害児者関係事業所との連携を図った。
 - ⑦品川区障害者福祉課と連携し利用者の生活を総合的に支援した。
 - ⑧障害区分の認定調査を実施した。
- (2) 社会資源を活用するための支援
 - ①各種施設・関係機関等の紹介を行った。
 - ②障害者が外出する際の支援を行った。
 - ③障害者に対しての住宅の紹介を行った。
 - ④外出や旅行、買い物などの生活情報を提供した。
 - ⑤障害者の自主グループ等の情報を提供した。
- (3) 社会で生活するための能力を高める支援を行った。
- (4) ピアカウンセリング
 - 完全個別相談、事前予約制、相談員2名で実施した。
- (5) 訪問リハビリ相談
 - 在宅の重度の身体障害者を対象に、車椅子・補装具・リハビリテーションに関して理学療法士による相談日を設け、助言指導を行った。
(訪問相談) 対象者: 4名 実施回数: 16回
(補装具等に関する相談) 対象者: 2名 実施回数: 2回
- (6) 関係機関とのネットワーク構築を目指し、行政・各障害者施設・各ヘルパー事業所・就労支援センター等と連携を図った。
- (7) 自立支援協議会、相談支援部会、子ども支援部会へ参加した。

(8) 入浴サービス

区の巡回入浴の窓口として家庭での入浴が困難な重度の障害者の方々へ巡回入浴を派遣した。

(9) 高次脳機能障害者相談

評価、復職、退院後の生活等について、専門の作業療法士による相談支援を実施した。学校等の関係機関を含めたカンファレンスにも参加した。

(10) その他

- ・「個別避難計画」「生活のしづらさ調査」等、区からの委託補助業務。
- ・東京都相談支援専門員現任研修の地域実習に対応。

3. 会議・研修

- ・支援センター会議 2回/月(内1回、高齢障害者相談支援事業所と合同)
- ・品川区障害者支援課主催の会議、連絡会 他

4. 実習生の受け入れ

事業説明のみ 1名

5. 資料：相談支援事業内容集計(障害者)

①相談者内訳(人) ※障害別は延人数)

実人数	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳機能	その他
1,115	349	66	759	45	4	50	0

②調査件数(件)

認定区分調査(新規・更新・変更)	計画相談(新規・更新・モニタリング)
137	633

③支援方法(件)

訪問	来所	同行	電話・FAX	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
613	183	26	1215	16	52	2,137	341	4,583

6. 資料：相談支援事業内容集計(障害児)

①相談者内訳(人) ※障害別は延人数)

実人数	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳機能	その他
272	10	2	112	1	155	5	0

②計画相談件数(件)

計画相談(新規・更新・モニタリング)	211
--------------------	-----

③支援方法(件)

訪問	来所	同行	電話・FAX	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
95	70	1	117	0	5	118	46	452

令和4年度 品川区中延障害者計画相談支援事業所事業報告

品川区大井第二障害者計画相談支援事業所事業報告

品川区八潮障害者計画相談支援事業所事業報告

1. 総括

- (1) 障害者計画相談支援事業所連絡会の場で現状の報告と課題について所管課に伝えていくが、引き続き今後の方針性などについて確認しながら進めていく必要がある。
- (2) 令和4年度も新型コロナウイルスの感染状況や利用者の意向に合わせながら訪問や電話、オンライン等の方法で相談業務を進めてきた。
- (3) 法人内の障害者計画相談支援事業所が連携を取りながら相談できる体制を作っていくために、支援会議やつぶやき会を設定し、職員の連帯感の保持に努めた。また、法人内の障害者相談支援事業所4か所で月1回、合同の会議を開催し、現任研修を通して相談業務の知識を深めるなど、意見交換の機会とした。
- (4) 中延は、継続して新規ケースの依頼がある為、事業所としてのケース数の上限を決めて状況を見ながら受け入れを行い、一定数を確保しながら順調に運営することができている。大井第二については、担当地域に対象者が少ない為、区の所管課に現状を報告しながら対象者の条件の見直しなどを行っている。また、八潮については地域の拠点相談支援事業所の運営事業所変更があり、年度半ばで移行ケースが重なった為、事務手続きの整理が必要な時期があり、新規受け入れを止めたが、年度後半より徐々に再開している。
- (5) 令和4年度も新型コロナウイルスの感染状況や利用者の意向に合わせながら訪問や電話等の方法で相談業務を進めた。

2. 会議・研修

- ①支援センター会議2回／月（内1回、高齢障害者相談支援事業所と合同）
- ②品川区障害者福祉課主催の会議、連絡会
- ③自立支援協議会 相談支援部会
- ④介護支援専門員連絡協議会主催の研修 他

3. 資料：相談支援事業内容集計

- ①中延

実人数	支援件数(訪問・来所・同行・電話など)	計画相談(新規・更新・モニタリング)
332	1275	156

②大井第二

実人数	支援件数(訪問・来所・同行・電話など)	計画相談(新規・更新・モニタリング)
108	912	133

③八潮

実人数	支援件数(訪問・来所・同行・電話など)	計画相談(新規・更新・モニタリング)
221	1846	73

令和4年度 品川区障害者地域活動支援センター事業報告

1. 総括

- (1) 在宅障害者サービス事業の教室の登録者は4名増えているが、参加人数が減少している教室もあり、次年度に向けて内容の見直しを行った。年度末の行事として「ありがとう会」を開催し、参加者19名で大道芸や落語を鑑賞し一年を締め括った。
- (2) 手話体験講座では、「区民向け」を昨年度から引き続き行い、多くの応募があった。また、新たに「子ども向け」「企業・事業者向け」の講座を開講し、手話普及のための事業を増強している。
- (3) 他事業所の見学については、職員体制が整わず実現できなかった。
- (4) 令和4年度は、新型コロナウィルス感染対策を行いながら全ての教室・講習会を開講したが、感染拡大など大きな問題はなかった。



2. 事業状況

(1) 相談・指導・訓練

- ①一般相談：主に聴覚障害者の各種相談に応じ、相談内容によって各種相談窓口を紹介した。
- ②言葉のリハビリ教室：脳血管障害による失語症罹患者を主な対象にして、言語療法士の指導のもと言語訓練を実施した。

(2) 社会参加プログラム

[創作教室、料理教室、音楽教室、ダンス教室、健康体操教室、等]
参加者が多い教室は少人数に変更し実施した。また、料理教室については感染防止の為、ボランティアと利用者とマンツーマンで実施した。

(3) 障害者パソコン教室

障害者の情報通信技術(IT)の活用のニーズに応えるため、障害者パソコンテーマ別教室と相談日を設定、実施した。パソコン所有者が減っていることもあり、年々利用者数が減少している。

(4) 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

遠隔手話通訳サービス導入に向けて、区所管課や関係機関と話し合いを進めた。(令和5年度より運用開始予定)

技術向上のため、登録手話通訳者・要約筆記者への現任研修を実施した。区の登録要約筆記者4名中、2名より登録辞退の申し出があり、令和5年度は登録通訳者が2名となる為、現任研修の実施方法などを検討した。要約筆記派遣については、都派遣センターに依頼していく予定。

(5) ボランティア育成・啓発事業

[講座、講習会：手話講習会、点字講習会、朗読講習会等]
各種ボランティア講座、講習会を実施した。中途失聴・難聴者向けの講座については、年6回の手話講習会を開講したが、応募者が2名だった為、次年度に向けて対象者などについて検討した。



法人の事業である「移動支援従業者養成研修」を10月に開催し、7名が研修を修了した。

(6) 交流室の運営

地域活動支援センターの参加者や訓練センター利用者の休憩場所として活用された。

(7) 各種貸し出し事業

障害者団体およびボランティア団体、地域住民に対し部屋、車椅子 等の貸し出しを行った。

事業名	R 4	R 3	R 2	事業名	R 4	R 3	R 2
パソコン教室 教室	10	38	45	創作教室	226	361	310
健 康 体 操 教 室 (肢体不自由)	124	154	169	手話講習会 (全5クラス)	1,329	649	中止
料理教室 (知的)	28	35	0	手話体験講座 (子ども向け)	24	/	/
言葉のリハビリ 教室	111	133	135	手話体験講座 (区民向け)	67	32	76
音楽教室 (歌・合唱)	70	60	46	手話体験講座 (事業者向け)	155	/	/
音楽教室 (音楽療法)	35	67	35	朗読ボランティア 養成講座	87	82	249
生活講座 (知的 散歩)	10	22	5	要約筆記啓発 講座	40	26	14
生活講座 (高次脳機能障害)	48	37	30	造形ワーク ショップ	8	12	30
聞こえにくい方のコミュニケ ーション講座	12	11	14				

交流室	1,246	781	908	手話通訳者派 遣事業	1,103	1,072	691
合同交流会	/	/	/	要約筆記者派 遣事業	29	25	66

数字は延人数 4 斜線は事業開催なし

令和4年度 福祉工場しながわ事業報告

1. 総括

- (1) 清掃事業は区内36カ所の公園清掃の他、旧大崎図書館等、臨時の清掃を請負った。清掃単価は引き続き単価交渉し、平米単価が微増となっている。
- 製パン事業はコロナ渦において原材料費の値上げが続いている。工程の見直しや仕入れ先の開拓などでコスト削減に努めている。
- 製陶部門は契約数以上の大幅な受注があり活況であった。引き続き増産体制の強化、工程の見直しや作業環境の改善に努めていく。
- 就労会計全体では、昨年度比で增收となっている。
- (2) 事業所では、事業所内研修、東社協、福祉保健局研修等、職員学習会等の機会を通して障害者虐待防止、人権意識の向上に努めた。

2. 利用者(従業員)状況・稼働率 《令和5年3月31日現在》

(1) 入退所状況

	性別及び事由	合計
入所者		0名
退所者		0名

(2) 障害支援区分 (単位:人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	合計
男性	13	3	8	3	27
女性	3	0	5	1	9

(3) 年齢構成 (単位:人)

	20歳~	30歳~	40歳~	50歳~	60歳~	65歳~	計
男性	1	4	13	6	1	2	27
女性	0	0	4	4	1	0	9

(4) 稼働率(年間平均)

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
稼働率 (%)	68.7	69.3	69.3

(5) 在所期間状況 (平均在所14.7年)

	0~2年	3年~	5年~	10年~	計
男	1	1	4	21	27
女	0	0	0	9	9

(6) 愛の手帳

	2度	3度	4度	計
男	0	10	17	27
女	0	6	3	9

(7) 実施機関: 品川区33名、江東区1名 大田区1名 目黒区1名

3. 支援・業務経過

(1) 支援全般

従業員1人ひとりに適した作業支援、作業環境の整備に心がけ、安定した作業が出来るように働きかけた。また従業員の精神面の支援として、家族等も含め面談を随時実施した。

(2) 日課、作業状況

○第1業務 (8:00~16:00)

	場 所	令和4年度	令和3年度	令和2年度
公園清掃	区内公園	36公園 4,320回	36公園 4,318回	36公園 3,890回
	鮫洲公園	246回	240回	210回
建物清掃	12箇所	延 3,552回	延 3,449回	延 3,169回

○第2業務 (7:00~19:00)

	回数	内 容
店舗開店日	246日	通常営業(パン製造・販売)
定例外部販売	214日	品川翔英、大井林町、八潮南GH、学研 城南職業能力開発センター、マクニカ他
出張販売・出店	41回	目黒街角クリスマス等*記念品等の納品あり

○第3業務 (8:00~16:00)

骨壺種類	令和4年度	令和3年度	令和2年度
7号(大人用)	9,103	8,317	7,383
6号~3号	250	253	433

(3) 作業支援

従業員一人ひとりが考え、責任感を持って仕事に取り組めるよう働きかけ、また仕事に対して自信を持ち、社会的自立へ繋がるよう援助した。

(4) 行事等

納涼会(26名)*事業所内にて飛沫防止対策構築の上実施。

(5) 健康管理

健康診断(法定)を実施、健診後のフォローも産業看護師と協力して相談、改善へと繋げている。

(6) 食事

昼食は信頼性の高い弁当業者と契約、適温で弁当を提供している。

4. 売上状況 (円)

売上	第1業務	第2業務	第3業務	合 計
令和4年度	71,981,634	17,633,127	51,876,000	141,490,761
令和3年度	70,300,472	18,796,513	46,665,500	135,762,485
令和2年度	66,585,097	21,408,008	41,548,400	129,541,505

5.

	支払い総額	賃金支払い実績(単位:円)
令和4年度	56,877,816	
令和3年度	55,984,544	
令和2年度	56,201,909	

令和4年度 鮫洲なぎさの家事業報告

1. 総括

- (1) 新規世話人の採用、育成により、安定した生活支援を進める事が出来た。
- (2) 利用者の家族も高齢となり、帰宅が難しくなってきている中、休日の過ごし方についても、支援の必要性・重要性が高くなっている。コミュニケーション機会や話題性の提供により、社会性が保たれる部分が大きかった。行事としては、近隣散策の外出が好評であった。
- (3) 食事は宅配業者から食材料を購入。手順に従い決められた調理による提供も安定している。また、外食やデリバリー等を実施し、気分転換を図っている。健康管理を考え、カロリーや栄養価管理がより重要であり、最適な食事提供を今後も継続していく。

2. 利用者状況・稼働率（定員6名）（令和5年3月31日現在）

(1) 入退所状況

・入退所なし

(2) 障害区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
女性	0	3	1	2	0	0	6

(3) 年齢構成（単位：人）

年齢層	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	平均年齢
人数	0人	0人	3人	1人	2人	0人	53.3歳

(4) 稼働率

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
稼働率（%）	99.9	99.6	99.5

3. 支援経過

- (1) 支援全般世話人と利用者の関係作りや生活も安定してきており、出来る限り、自主性を尊重して、自己選択・自己決定に配慮した日課作りを進めた個々の問題に対しては、個別面談、全体ミーティングを実施した。利用者への対応としては、傾聴に努め、必要な助言を行った。

(2) 食事

利用者の体重増加、栄養管理等を考慮して、民間業者の食材の宅配により食材料を購入、そのメニューに従って、現場での食事作り、提供を継続実施した。安価な食材費での提供と栄養管理的にも行き届いており、その効果は健康面に反映されている。一方では多様な食事・嗜好に対しては、出前や仕出し持ち帰りなどで多様な食事の機会を設けた。また、誕生月でケ

ーキでのお祝いも継続して実施した。これらにより、栄養面での健康管理と豊かな食事、気分転換を含めた食事という両面において有効な食生活であった。

(3) 生活・行事等

個々人の生活リズムを尊重した基本的生活支援を行い、個人の生活を大切にした掃除や洗濯等の基本的生活要素の自立支援及び余暇支援等を行った。また、お花見会、クリスマス会、初詣外出など季節行事を実施した。

(4) 健康管理

健康管理として、持病を抱えている利用者4名の定期通院に付添し、担当医に日常の経過報告を正確に伝え、治療を進めるとともに服薬管理や健康管理への助言、支援を行ってきた。また区民検診、インフルエンザ予防接種及びコロナワイルスワクチン接種は全員4回実施済み。

4. 会議・研修

東京都グループホーム研修会（リモート）に参加。個別支援計画打合せ、職員会議と虐待防止に纏わる学習会を実施。

5. 就労、通所支援

- (1) 各通所施設等への職場訪問を行い、先方事業所との連絡を密に、通所、就労状況の把握と諸課題解決への調整、連携に努めた。
- (2) 施設通所利用者には施設の保護者会や行事にサービス管理責任者が出席し、連携を図っている。

6. 家族・地域との関わり

保護者会を1回実施した他、出席できない家庭には個別に対応した。必要に応じて家族と連絡をとり、課題の解決を図ってきた。また、地域行事の「バーベキュー」はコロナ禍のため中止。

7. 安全管理

- 避難訓練（防災・震災）を年間12回実施。
感染症及びコロナ対策としてAir Dogを設置。

令和4年度 さつき事業報告

1. 総括

- (1) 就労事業においては、軽作業では、花ふきん、菓子箱折を中心に売り上げを伸ばし、当初予算を大きく上回った。一方で売店は、日用品の売上が下がった。
- (2) クリーニングでは、特に法人外収入が高く推移し、全体的に予定以上の売り上げを達成した。結果、全体で工賃の向上にも繋がった。
- (3) 利用者支援においては、特別支援学校から1名、途中3名の新規利用者登録があった。また、2名が退所された。
- (4) 施設の取り組みとしては、職員全体が様々な障害特性を理解し、虐待防止委員会の運営に力を入れ、虐待根絶の意識向上に努めた。また、職員は、時間内に業務遂行をするという意識を持ち、超過勤務は殆ど無く、働き方改革の実効性を高めた。支援に関しては、利用者が休まず安心して通所が出来るよう、働く事へのモチベーション向上を心がけた。コロナ感染の影響が出た時期があったものの、結果、年間平均稼働率は、目標の98%を上回り、103%となった。

2. 利用者状況（令和5年3月31日現在）

(1) 入退所状況

(単位人)

	性別及び事由	合計
入所者	女性1名 男性3名(新規)	4名
退所者	女性1名 男性1名(本人都合)	2名

(2) 障害区分

(単位人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	9	7	6	3	4	1	0	30
女性	8	1	2	4	8	2	0	25
合計	17	8	8	7	12	3	0	55

(3) 年齢別

(単位人)

年代	10	20	30	40	50	60	70	合計
男性	0	2	5	5	12	4	2	30
女性	1	3	2	7	5	6	1	25
合計	1	5	7	12	17	10	3	55

(4) 稼働率

令和年度	4年度	3年度	2年度
利用率 (%)	103	98.2	102.6

3. 支援全般

(1) 就労売り上げ、工賃実績

就労売り上げ

単位：円

作業班	令和4年度	令和3年度	令和2年度
軽作業	3,720,645	3,538,833	2,979,800
軽作業（清掃）	302,500	302,500	302,500
自主製品	2,158,766	1,577,070	1,916,907
喫茶・売店	16,265,280	17,052,895	21,496,108
クリーニング	36,467,093	34,127,687	32,870,651
合計	58,914,284	56,599,035	59,565,966

工賃実績

単位：円

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
軽作業・支給総額	4,735,018	4,791,482	4,531,502
軽作業・最高額	18,612	18,667	18,468
軽作業・月平均額	9,988	9,104	8,504
クリーニング・支給総額	11,855,077	11,035,453	10,567,470
クリーニング・最高額	42,504	42,355	41,184
クリーニング・月平均額	21,221	23,745	22,665

(2) 健康管理

①定期健康診断は年1回実施、聴打診、尿検査の他、胸部X-P、血液

一般、心電図等実施。

②インフルエンザ予防接種を希望者へ実施。

(3) 就労移行支援、就労継続支援 A型その他への移行、一般就労等なし。

余暇支援は新型コロナウィルス感染予防のため、実施出来なかつた。

4. 会議、研修

職員会議を毎月実施、その他個別支援計画会議、アセスメント会議、現任研修、虐待防止委員会等を実施した。

5. 実習生

品川介護専門学校より2名受け入れをした。

6. 防災

主事業所は新型コロナウィルス感染に十分注意し、ピッコロ・にじのひろば八潮と共同して防災訓練等を実施した。従事業所は、上記同様感染に十分注意し、本部内の施設と共同で防災訓練等を実施した。

令和4年度 八潮中央保育園事業報告

1. 総括

- (1) 年間を通して、定員を満たした状態で運営を行っている。
- (2) 令和4年5月より大規模改修のため、旧八潮南保育園へ移転し、令和5年3月に工事が終了したため、元の園舎に戻っている。改修前後共に、大きなトラブル等なく、安全に過ごすことが出来ている。
- (3) 新型コロナウイルス感染症関連では、年間を通して、陽性者が重複することがあった。令和4年7月下旬までは、濃厚接触者に該当すると数日間クラス閉鎖を余儀なくされたため、複数回、クラス閉鎖を実施した。7月以降は、保育所の濃厚接触者の特定を実施しないという方針が出たため、クラス閉鎖は行わないこととなった。

新型コロナウイルス感染症の関連から保護者の働き方が年々変化しており、延長夜間保育利用者の減少が見受けられ、夜間保育は令和4年度をもって終了することになった。感染対策として、行事の規模の縮小、ズームを利用しての保護者会の実施、日常生活では手洗いの励行の強化、食事場面でのパーティションの利用、感染状況により、異年齢保育を控え、感染防止に努めた。

2. 利用者状況

令和4度年齢別利用状況（令和5年3月31日現在 単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
延人数	107	132	180	239	240	237	1,135
月平均在籍数	9.0	11.0	15.0	20	20	20	95

利用率 (%)

年 度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
利用率	104	110	110

延長夜間保育利用状況（人）

年 度	令和4年度	令和3年度	令和2年度
月平均延人数	51	60	113

3. 保育経過

(1) 保育全般

全体的な計画を基に、各クラスの指導計画に沿って園児一人ひとりの健やかな成長を第一に考えて保育を行った。

(2) 日課

乳児は、午前中に散歩や散策等の戸外活動を取り入れ、存分に体を動かしながら自然に触れる機会を多く取り入れた。幼児クラスは感染防止に配慮しながら、行事の取組みを含めた様々な活動を取り入れつつ、散歩や園庭遊びなどで身体を動かした、集団遊びを積極的に取り入れた。

(3) 行事

新型コロナウイルス感染症対策のため、規模の縮小はあったが、感染防止に努めながら、子ども達に行事の由来や意味を伝え、行事の雰囲気を楽しめるように配慮した。

(4) 健康管理

コロナウイルス感染症対策強化として、高性能空気清浄機、超音波式除菌加湿器の設置や園児、保護者、職員の毎日の検温を行った。

ケガによる通院件数は19件あり、顔の擦過傷、室内や戸外での転倒による歯牙の打撲が年齢を問わず多い。

(5) 給食

和食を中心としたメニューを基本とし、様々な味を経験する機会を作った。食物アレルギー児に対しては、主治医の診断書のもと除去食を提供している。

(6) 地域交流

年度末に八潮学園との交流を再開し、5歳児が1年生のクラスの授業に参加した。また、学校交流の中で、他の八潮内保育園と同じ場を共有する形で交流を行った。

(7) 一時保育

利用申し込みがなかった。

4. 会議・研修

品川区私立保育園連合会他、キャリアアップ研修、その他様々な団体主催の研修に職員を派遣した。オンライン形式の開催となったものが多くなり、参加しやすい環境が整備され、職員の希望に沿って研修に参加させることができた。会議については月1回の職員会議で意見交換を行い、共通認識を促した。全体職員会議を年2回実施し、新年度の運営方針の確認、次年度の計画等を全職員で検討する場とした。

5. 保護者との関わり

保護者会は参加人数を制限して実施した。新型コロナウイルス感染流行時はZoomを利用しての開催を実施した。主な内容は、クラス運営について、移転改修について等である。

6. 防災、安全対策

毎月の避難訓練で災害時の対応を確認した。9月に引取り訓練、10月に津波想定訓練、また、11月に安全対策として警察の協力を得て職員と年長児も参加しての不審者対応訓練を実施した。

7. 環境整備、備品購入

防災用として、非常食を購入し、期限が近いものは園児、職員で食べる機会を複数回設け、総入れ替えを実施した。

大規模改修に伴い、保育室や事務所内の備品を新規に購入した。

令和4年度 品川区立八潮北保育園事業報告

1. 総括

- (1) 4月より運営が開始となり、6月頃までは様々なご意見を頂く事が多かったが、関係性が構築されることで良好な関係となった。環境や人に慣れる事で日々の保育にも安定感が出てきた。
- (2) 職員の意識や価値観が統一する為の話し合いは十分に行う事は出来なかったが、クラス単位での話し合いの時間は随時、必要な時に時間を確保するようにし、疑問等の解決を行った。
- (3) 電子連絡帳の導入に伴い、システム内での活用方法を検討し、次年度より活用の拡大につなげている。

2. 利用者状況

令和4年度年齢別利用状況（令和5年3月31日現在 単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
延人数	96	179	216	233	236	237	1,197
月平均在籍数	8.0	14.9	18.0	19.4	19.7	19.8	99.8

利用率 (%)

年 度	令和4年度		
利用率	98		

延長保育利用状況（人）

年 度	令和4年度		
月平均延人数	47.8		

3. 保育経過

(1) 保育全般

全体的な計画を基に、各クラスの指導計画に沿って園児一人ひとりの健やかな成長と安全を第一に考えて保育を行うとともに、園児との関係性構築に努めた。

(2) 日課

園全体として、散歩や散策等の戸外活動を取り入れ、存分に体を動かしながら自然に触れる機会を多く取り入れた。各年齢や成長に合わせ、日課の時間や流れも微調整を行いつつ進めた。

(3) 行事

区立園だった時の行事をそのまま引き継ぎ、内容は近づけた形で実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため、中止、規模の縮小はあったが、子ども達に行事の由来や意味を伝え、行事の雰囲気を楽しめるように配慮した。

(4) 健康管理

新型コロナウイルス感染症の罹患者は複数名見られたが、集団感染には至っ

ていない。6月末より高熱を出す園児が多く、7月に入りヘルパンギーナの罹患者が17名出た事で保健所に報告を行っている。ケガによる通院件数は4件。歯牙の打撲、ぶつけた事での裂傷が2件ずつとなっている。

(5) 給食

委託業者と協力し、和食を中心としたメニューを提供した。区立園だった時とメニューが大きく変わり、味や見慣れないメニューで食の進みは悪かったが、味を知る事で食事量も増え、様々な味の経験に繋がった。

食物アレルギー児に対しては、3月、9月に面談を実施し主治医の診断書とともに除去食を提供している。

特別支援児については、その子に合った食事形態での提供、宗教上での除去食も実施している。

(6) 地域交流

新型コロナウイルス感染症対策の為、地域の関係機関との交流は行わなかつた。本部正面玄関に2歳児の作品を展示し、中央保育園と5歳児同士でのドッジボールの試合といった、法人内での交流を行つた。

(7) 一時保育

利用件数は0件。乳児幼児共に保育課からの依頼はあったが、受け入れ態勢と安全の確保が難しい為お断りした。

4. 会議

研修職員会議をはじめ、各種会議を実施。職員の情報共有と共通認識につながるように進めた。品川区保育課主催の研修、虐待防止研修、年4回の学校心理士による研修、年2回の臨床心理士による研修、特別支援児の食事介助見学等、園内の内部研修を中心に、無理のない範囲で研修に参加している。

5. 保護者との関わり

年3回の保護者会、年1回の個別面談を行つてある。その他、職員全体で保護者との信頼関係を構築するために、丁寧で真摯な対応を心掛け実施した。

6. 防災、安全対策

毎月の避難訓練で災害時の対応を確認した。園児用の防災頭巾等必要備品の準備を行つた。

7. 環境整備、備品購入

区の備品が撤去された事で、各種電子機器とネットワーク環境を整備した。電子連絡帳の導入に伴い Child Care Web のシステムを使用している。

令和4年度 八潮わかくさ荘事業報告

1. 総括

- (1) 八潮わかくさ荘は、4~8階の40戸の単身者用高齢者住宅の管理及び緊急時の対応を行なった。平均年齢81.3歳。
- (2) 1年間に退居した方は5名。内1名が老衰で居室にてご逝去されていたのを、12時間生活リズムセンターで発見された。新入居者は4名で、昨年度より実施している退去後排水管交換工事を実施するため入居まで時間がかかっている。
- (3) 要介護認定又は事業対象者の認定を受けている方が5名おり、内4名がヘルパー派遣や通所サービス等の介護保険サービスを利用している。同一建物にあるデイサービスで実施している通所介護や通所給食の利用等により連携した対応ができている。
- (4) 居住者間のトラブルは、その都度区とも協議し対応を行った。
- (5) 今年度老衰により家族やケアマネにもこまめに連絡や相談、報告を実施し、ワーデンにより毎日安否確認を実施したが、12時間生活リズムセンターによりご逝去されたことを発見した。

2. 入居者状況

- (1) 入居者的心身状況の変化に伴い、日常生活についての相談やサービス調整等に支援センター、区、各関係機関と連携した。また、昼夜にわたって様子伺いを実施するなど、デイサービス、支援センター、ワーデンが一丸となって対応を続けている。3月末現在入居者37名。
 - ・〈入居者の介護サービス利用状況〉 令和5年3月31日現在

年度	ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食・配食
令和4年度	2名	2名	2名
令和3年度	2名	2名	2名
令和2年度	3名	4名	3名

3. 設備管理

- (1) 建物の老朽化が進んでおり、各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないよう営繕と連携し対応した。

4. 防災訓練

- (1) 新型コロナウイルス感染拡大により、例年実施していた60号棟との合同防災訓練、八潮地区総合防災訓練については中止となった。八潮在宅サービスセンター、支援センター、サンかもめ合同の総合防災訓練も新型コロナウイルス感染予防のため不参加とした。

5. その他

- (1) ワーデン業務については、非常勤職員3名を雇用し対応していたが。令和3年6月よりワーデン1名が退職。令和5年3月末現在まで募集するが見つからず職員が宿直業務に入っている状況が続いている。

令和4年度 大井倉田わかくさ荘事業報告

1. 総括

- (1) 夜間、民間警備保障会社による、生活動作確認・非常通報・火災検知の24時間機械警備を実施した。
- (2) 平日の昼間は、同敷地内に隣接する大井在宅サービスセンター（在宅介護支援センター）が、様々な相談を受けた。
- (3) 基本的には自立・自活されている高齢者が入居しており、現在介護保険サービス利用されている入居者はいない。
- (4) 区主導で、退去後の2室についてリニューアル工事を実施した。

2. 入居者状況（令和5年3月末現在、7名入居）

- (1) 男性1名、女性1名と合計2名の新入居があった。

〈入居者の介護サービス利用状況〉				令和5年3月31日現在
福祉用具貸与	ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食	
0名	0名	0名	0名	

3. 設備管理

- (1) 退去後の2室に対してリニューアル工事を実施。また、消防設備の点検を年間2回、敷地内清掃を毎月実施している。

4. 防災訓練

- (1) サービスセンターとの避難訓練（9月19日）に参加を呼びかけた。当日はわかくさ荘101号室からの出火想定とし、入居者6名中3名の参加があった。

5. その他

- (1) 警備会社の警報発報による出動が3回。原因としては、換気扇未使用による熱感知センサーによる火災警報であった。

令和4年度 大井三丁目高齢者憩いの場事業報告

1. 総括

- (1) 当事業の実際の運営に専属職員はおかげ、法人内事業所からの委員により運営委員会を組織し、事業を企画、準備、分担、実施してきた。
- (2) 令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の工夫を行いながら、休館することなく事業を実施してきた。コロナ禍で中止してきた事業の一部、「スマホ何でも相談」を再開した。調理とカラオケの実施については、開催は見送りを余儀なくされているが、全ての事業について、予約制・少人数制で受け入れを行い、定員以上の申し込みを受け付けている。火曜日・金曜日に実施されていた縁側カフェの枠は引き続き、ピンコロ道場を実施、ミニディ卒業された方の居場所として健康維持のために継続される方が多い。
- (3) コロナ禍でも介護予防事業については積極的に行うようにと区の意向を受け、「ミニ健康教室」として2年目を開催。専門職から学べる講座ということで、常に定員数以上の申し込みがあった。避暑シェルターでは、夏期、来館者へ麦茶の無料提供を実施している。感染対策が緩和されてきた状況を鑑み、プログラムに来館時にも、感染対策を行ながら飲み物の提供を再開した。
- (4) 多世代交流事業「ひなたぼっこ」の実施は感染予防の一環として、品川区の判断で中止が続いているが、開催を待つ声が多い。年度末に感染対策について国の緩和の方向性が示され、入館時の受付方法を簡略化し、より入りやすい環境を整えた。
- (5) コロナ禍でも、感染対策を行なながら、引きこもり防止、生活活性化等の介護予防の場を設け役割を担い、利用者が全体的に増加した。

2. サービス・事業内容

(1) 地域の高齢者や障害者、子育て世代等の憩いの場・交流の場

- ①園芸療法を用いて、菜園を利用した土いじり・草花・野菜などの園芸活動、身の回りの自然との関わりから、心身の健康維持、回復を目指した。
- ②ピンコロ道場に、生活総合機能改善機器「DKエルダーシステム」のカラオケ機を導入し火曜日・金曜日に実施し、地域ミニディ事業の卒業生の行き場作りとして健康体操を中心に開催した。
- ③9月の開催予定の地域交流事業「こすもすパーティー」は、新形コロナウイルス感染防止の観点から中止となった。
- ④ほっとサロン：品川区社会福祉協議会登録団体に部屋を貸し出し、外出機会の少ない高齢者を中心とした地域交流の場とした。
- ⑤大井第二地区 支え愛ほっとステーション「よりみち」に部屋を貸し出し外出機会の少ない高齢者を中心とした地域交流の場とした。

(2) 介護予防事業

①地域ミニデイの開催

介護予防・日常生活支援総合事業としてボランティアによる地域ミニデイサービスを実施、健康作り体操等高齢者の介護予防を進めた。

②ミニ健康教室の開催

健康に関するテーマを様々な視点から取り上げ、専門職から学ぶ講座を実施。ボランティア団体の協力を得て、健康と生活の活性化を進めた。

(3) ボランティア講座

①「ヤングケアラーのためにできること」

地域のニーズに対して、支え合う地域社会を目指して、正しい知識を伝え、啓発している。(品川総合福祉センター合同開催)

日時 令和3年3月3日(金)

開催場所 大井町きゅりあん 大会議室

参加者人数 114名

講師 町 亞聖氏(元アナウンサー・ヤングケアラー)

(4) その他

①夏期は品川区の「避暑シェルター」事業で水分補給の場として開放した。

事業名	開催回数	利用者数(人)		備考
		令和4年度	令和3年度	
縁側カフェ	中止	中止	中止	
園芸療法	40	157	87	
地域ミニデイ	44	210	195	
ピンコロ道場	99	483	377	平成30年3月開始
ミニ健康教室	12	87	40	令和3年4月開始
「ひなたぼっこ」	中止	中止	中止	多世代交流事業 (工作・おやつ作り)
スマホ何でも相談	21	124	中止	令和4年4月再開
その他	280	1,284	362	避暑シェルター+その他
こすもすパーティー	中止	中止	中止	地域交流事業(9月)
合計(直営事業)	496	2,345	1,061	

ほっとサロン	34	189	118	品川ボランティアセンター事業
フリースペース「よりみち」	27	305	168	大井第二地区支え愛・ほっとステーション
スマホ体験・よろず相談	16	83	—	品川区高齢者地域支援課

